

井手町立デイサービスセンター空調設備改修工事

図面リスト

No.	図面名称	縮尺	No.	図面名称	縮尺	No.	図面名称	縮尺
00	表紙・図面リスト	—	A-01	建築改修工事 特記仕様書-1	—	E-01	電気設備工事 特記仕様書-1	—
M-01	機械設備工事 特記仕様書-1	—	A-02	建築改修工事 特記仕様書-2	—	E-02	電気設備工事 特記仕様書-2	—
M-02	機械設備工事 特記仕様書-2	—	A-03	建築改修工事 特記仕様書-3	—	E-03	電気設備平面図	A1 1:100 A3 1:200
M-03	付近見取図	A1 1:2,500 A3 1:5,000	A-04	建築改修工事 特記仕様書-4	—			
M-04	配置図	A1 1:200 A3 1:400	A-05	建築改修工事 特記仕様書-5	—			
M-05	仮設計画図(参考) 概略工程表	A1 1:200 A3 1:400	A-06	建築改修工事 特記仕様書-6	—			
M-06	空調設備撤去機器表・系統図	—	A-07	建築改修工事 特記仕様書-7	—			
M-07	空調設備撤去平面図-1(配管図参照)	A1 1:100 A3 1:200	A-08	建築改修工事 特記仕様書-8	—			
M-08	空調設備撤去平面図-2(ダクト図参照)	A1 1:100 A3 1:200	A-09	建築改修工事 特記仕様書-9	—			
M-09	空調設備改修機器表・系統図	—	A-10	天井仕上げ撤去復旧範囲図	A1 1:100 A3 1:200			
M-10	空調設備改修平面図-1	A1 1:100 A3 1:200						
M-11	空調設備改修平面図-2	A1 1:100 A3 1:200						

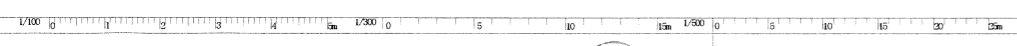


Table with 3 columns: 1. 工事概要 (Project Overview), 2. 建物概要 (Building Overview), 3. 工事科目 (Work Items). Includes details like project name, location, and a grid of work items with checkboxes.

【特記事項】
1. 一般事項
2. 特記事項
項目及び特記事項は、●印をついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は、☆印を適用する。

Main specification table with 3 columns: 項目 (Item), 場 所 (Location), 特 記 事 項 (Remarks). Contains detailed technical requirements for materials, construction methods, and safety measures.

Table with 3 columns: 項目 (Item), 特 記 事 項 (Remarks), 備 考 (Remarks). Contains specific technical notes and supplementary information for various equipment and materials.

Table with 3 columns: 項目 (Item), 特 記 事 項 (Remarks), 備 考 (Remarks). Contains specific technical notes and supplementary information for various equipment and materials.

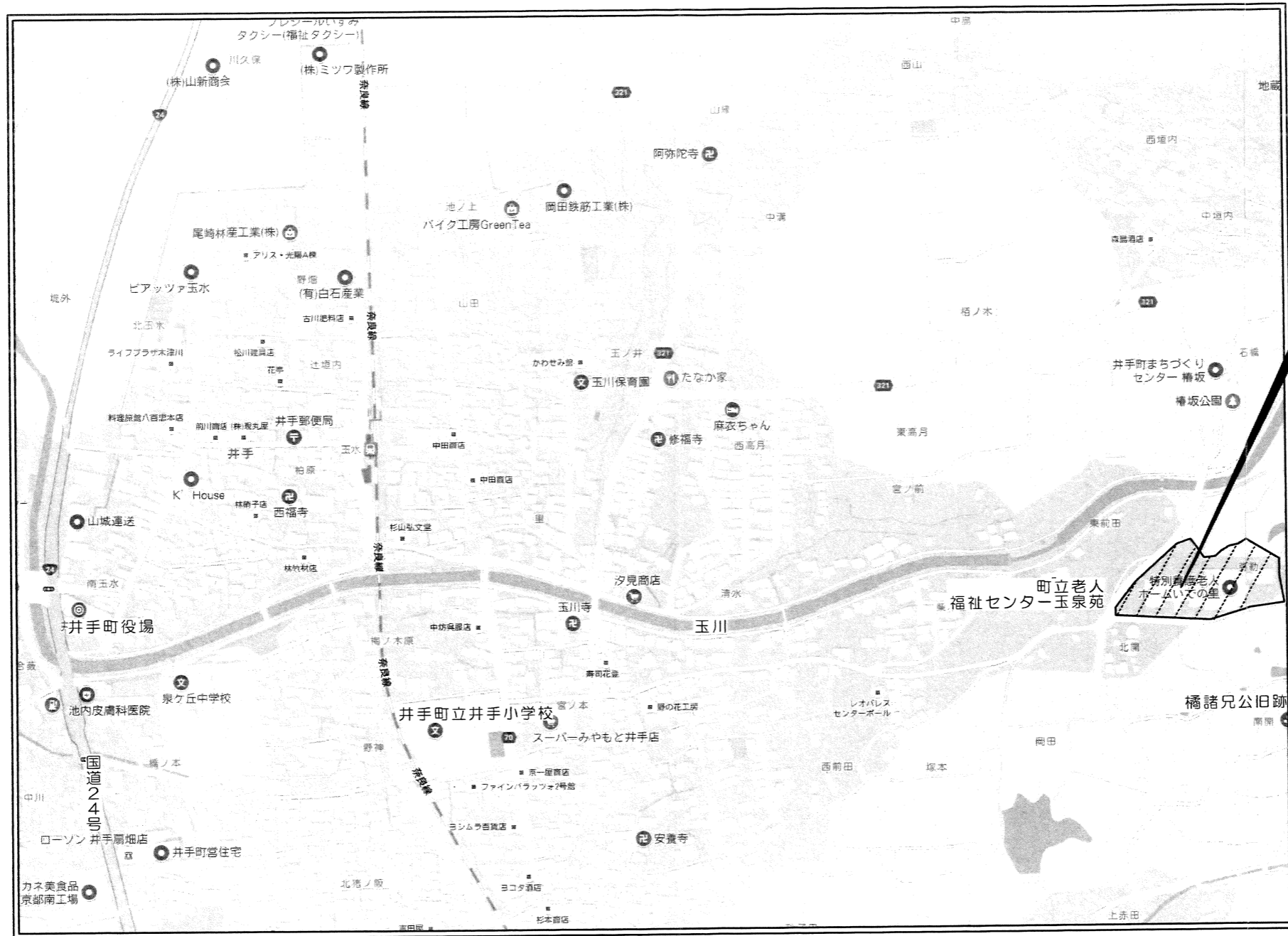
機械設備工事 特記仕様書 - 2

空調設備	○鋼板製煙道	厚さ ○3.2mm ○4.5mm
	○ばい煙濃度計	○ばい煙濃度計の取付座 ○ばいじん量測定口 ○伸縮継手 ○掃除口
換気設備	○瞬間流量計	○ファン付 ○ファンなし (電源はボイラー制御盤より取出し、配管配線共本工事に含む)
	●保温 (図面特記部分は除く)	○固定形 ○蓋脱可能形 (測定用タッピング 個 本体 個) 1) 冷媒管の保温外装は下記による。 ・屋内 隠ぺい部 ○不要 ○必要 露出部 ○保温化粧ケース (塩化ビニル樹脂製) ○ ・屋外 ●ステンレス鋼板 ○アルミ合金製 ○保温化粧ケース (樹脂製 ○溶融亜鉛メッキ鋼板製) ○ステンレス鋼板製 ○溶融亜鉛メッキ鋼板製 ・保温化粧ケースの下部カバー ○必要 ○不要 2) ファンコイルユニット等のドレン管の保温は、給排水設備工事の排水管による。 3) 加温用給水水槽の保温は膨張タンクに準ずる。 4) ドレン内の油管はプラスチックテープ1/2重ね1回巻きとする。 ○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法 (○共板フランジ工法 ○スライドオンフランジ工法) ●スパイラルダクト
給水設備	○ダクトの工法	○給気ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 ○排水ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 ○厨房排気ダクトの板厚 厨房排気ダクトは亜鉛鉄板製とし、板厚は下記による。
	○ダクトの分岐方法	給気ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 排水ダクト ○割込み方式 ○直付け方式
給気設備	○厨房排気ダクトの板厚	厨房排気ダクトは亜鉛鉄板製とし、板厚は下記による。
	○排気フード	ダクトの長辺 板厚 450mm以下 0.6mm 450mmを超え1200mm以下 0.8mm 1200mmを超え1800mm以下 1.0mm 1800mmを超えるもの 1.2mm
排煙設備	○排煙対象部分	1) 排気フードの補強・支持金物・接合剤等は、亜鉛鉄板製ダクトの当該事項によるものとし、材質は下記による。 ○ステンレス鋼板 (補強共) ○亜鉛鉄板 2) 排気フード廻りに取付ける導板は、上記フードと同材質とする。 ○本工事 ○別途工事 3) グリスフィルターの予備 ※不要 ○必要
	○ダクトの種別	浴室・厨房 (多湿箇所) の外気取入ダクトの保温 ○不要 ○必要 外気取入ダクトの保温 (空調を行っている室について) ○不要 ○必要 全熱交換器までの外気取入ダクトの保温 (空調を行っている室について) ○不要 ○必要 全熱交換器以降の外気取入ダクトの保温 (空調を行っている室について) ○不要 ○必要 保温を行う場合の仕様は標準仕様書第2編第3章第1節による。
衛生器具設備	○小便器用節水装置	○廊下 ○事務室 ○図示 ○最大面積 m ²
	○自動水栓	○高圧1ダクト ○高圧2ダクト
給水設備	○給水方式	○公共水道直結 ○受水タンク及び高置タンク ○受水タンク及び加圧ポンプ ○直結プースターポンプ
	○配管材料 (図面特記部分は除く)	○普通鋼板製 1) 形状 ○スリットフェーズ形 ○パネル形 ○ダンパー形 2) 排煙口の開放 ○手動 (○機械式 ○電気式) ○煙感知器連動 3) 復帰装置 ○手元復帰式 (○手動式 ○電気式) ○遠方復帰式 4) ダンパー本体及び操作箱との廻り配線は本工事とし、それ以降の制御配管配線は別途工事とする。 ○保温 床下及び暗渠内の保温 ○不要 ○必要 (図示) ※図面による。
給水設備	○緊急遮断弁装置	○要 ○不要 駆動方式 ○電気式 ○機械式
	○量水器	○直読式 ○ハルス式 (○乾式デジタル式 ○湿式アナログ式)

給水設備	○水栓柱	○合成樹脂製 (70x70x1300H) ○ステンレス製 () ○アルミニウム合金製 () 特記なき場合、水栓取付け高さは約600とする。
	○管の埋設深さ	1) 一般敷地 ○300mm ○ 2) 構内車両通路 ○600mm ○ 3) 寒冷地では凍結深度以上とする。
排水設備	○加入金・負担金	○不要 ○必要 (※別途 ○本工事) ○本管引込工事 ※本工事 ○別途工事
	○排水方式	汚水と雑排水 [屋内] ○分流水 ○合流式 汚水・雑排水と雨水 [屋外] ○分流水 ○合流式 ポンプ排水 ○有り (○雑排水 ○汚水 ○浄化槽2次側) ○なし
排水設備	○放流式	汚水 ○直放流水管 ○浄化槽 ○ 雑排水 ○直放流水管 ○浄化槽 ○別途樹・側溝 雨水ポンプアップ ○直放流水管 ○雨水側溝 ○雨水樹 湧水ポンプアップ ○直放流水管 ○雨水側溝 ○雨水樹
	○配管材料 (図面特記部分は除く)	屋内雑排水管 ○排水用塩ビライニング鋼管 ○鋼管 (SGPW) (○ねじ接合 OMDジョイントによる接合) ○ビニル管 (VP) ○耐火二層管 ○ 屋内汚水排水管 ○排水用塩ビライニング鋼管 ○ビニル管 (VP) ○RF-VP ○耐火二層管 ○
排水設備	○通気管	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 (RF-VP) ○鋼管 (SGPW) (○ねじ接合 OMDジョイントによる接合) ○ビニル管 (VP) ○排水用塩ビライニング鋼管 ○耐火二層管 ○
	○地中配管 [屋内]	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管 (REP-VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管 (RS-VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 (RF-VP) ○ビニル管 (VP) ○ビニル管 (VU) ○
排水設備	○地中配管 [屋外]	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管 (REP-VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管 (RS-VU) ○ビニル管 (VP) ○ビニル管 (VU) ○
	○鋼管類のポンプアップ排水用の配管は、塩ビライニング鋼管 (SGP-VA, SGP-FVA) (地中配管はSGP-VD, SGP-FVD) とし、継手はフランジ又はハウジング形継手とする。	
給湯設備	○漏水試験継手	○必要 (図示箇所) に取付ける) ○不要
	○負担金	○不要 ○必要 (○別途 ○本工事)
給湯設備	○本管接続工事	○本工事 ○別途工事
	○給湯方式	○中央式 ○局部式
給湯設備	○配管材料	○鋼管 (壁又は床埋設をする場合は、保温付被覆鋼管を使用してもよい。) ○ステンレス鋼管 ○耐火性塩ビライニング鋼管 ○保温付き被覆鋼管
	○保温	ガス湯沸器の排気筒の隠蔽箇所の保温は、標準仕様書第2編3.1.5の表2.3.5による。
消火設備	○消火設備の種類	○屋内消火栓 ○スプリンクラー ○泡消火 ○不活性ガス消火 () ○連結送水管 ○
	○表示灯	屋内消火栓箱には、消火ポンプ運転表示灯取付用口を設ける。
消火設備	○配管材料 (図面特記部分は除く)	一般配管 ○配管用炭素鋼管 (白) ○圧力配管用炭素鋼管 (白) ○
	○保温	屋内外地中配管 ○外面被覆鋼管 (SGP-VS) 消火用充水タンクの保温を ○施工する (膨張タンクによる) ○施工しない 消火用呼水タンクの保温を ○施工しない ○施工する (膨張タンクによる) 屋外露出管の保温を ○施工しない ○施工する (給水管の保温仕様準ずる) 屋内露出管の保温を ○施工しない ○施工する (給水管の保温仕様準ずる) トレンチ内の保温を ○施工しない ○施工する (給水管の保温仕様準ずる)
ガス設備	○ガスの種類	○都市ガス (発熱量 0.45, 0.00kJ/N m ³ ○ KJ/N m ³) ○液化石油ガス (0.50kg 本立 ○20kg 本立)
	○ガスメーター	親メーター ○貸与品 ○購入 子メーター ○購入 ○貸与品 計量方式 (○直読式 ○ハルス式)
ガス設備	○配管材料 (図面特記部分は除く)	一般配管 ○配管用炭素鋼管 (白) ○ 屋内外地中配管 ○ポリエチレン被覆鋼管 ○ガス用ポリエチレン管 ○
	○地中埋設管の接合法	○SGM工法 ○ネジ工法 ○PE管工法 ○ビット内施工法 ○溶接工法 ○負担金 ○不要 ○必要 (○別途 ○本工事) ○本管接続工事 ○本工事 ○別途工事
設く井	○掘削工法	○パーカッション式 ○ロータリー式 ○ダウンザホールハンマー式
	○ケーシング材質	深度 () m ○配管用炭素鋼管 (黒管) ○配管用ステンレス鋼管


井中熱交換	○掘削工法	○回転振動式 ○ロータリー式 ○ダウンザホールハンマー式 ○ロータリーパーカッション式
	○設置機器	安全装置の適用は図面による。
浄化槽設備	○形式	○ユニット形 ○現場施工形
	○処理方法	○小規模合併処理 (別紙参照) ○合併処理 (別紙参照)
医療ガス	○設置機器	※図面による。

- 別表 1 付属品・予備品
- 工具箱 (ドライバー、モンキーレンチ、組スナパー、ハンマー)
 - マンホールフック ○パイプレンチ ○ポンプブライヤー ○ボンテン (大、小)
 - イージーキャビネット 箱 ○キーボックス
 - 蓋雑予備品 (ランプ及びビュースの100%)
- ※その他
仮設暖房 (電気ファンヒーター) を10台設置すること。
仕様: 1台あたりの能力 (6畳程度) 使用期間: 2~3ヶ月

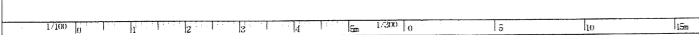



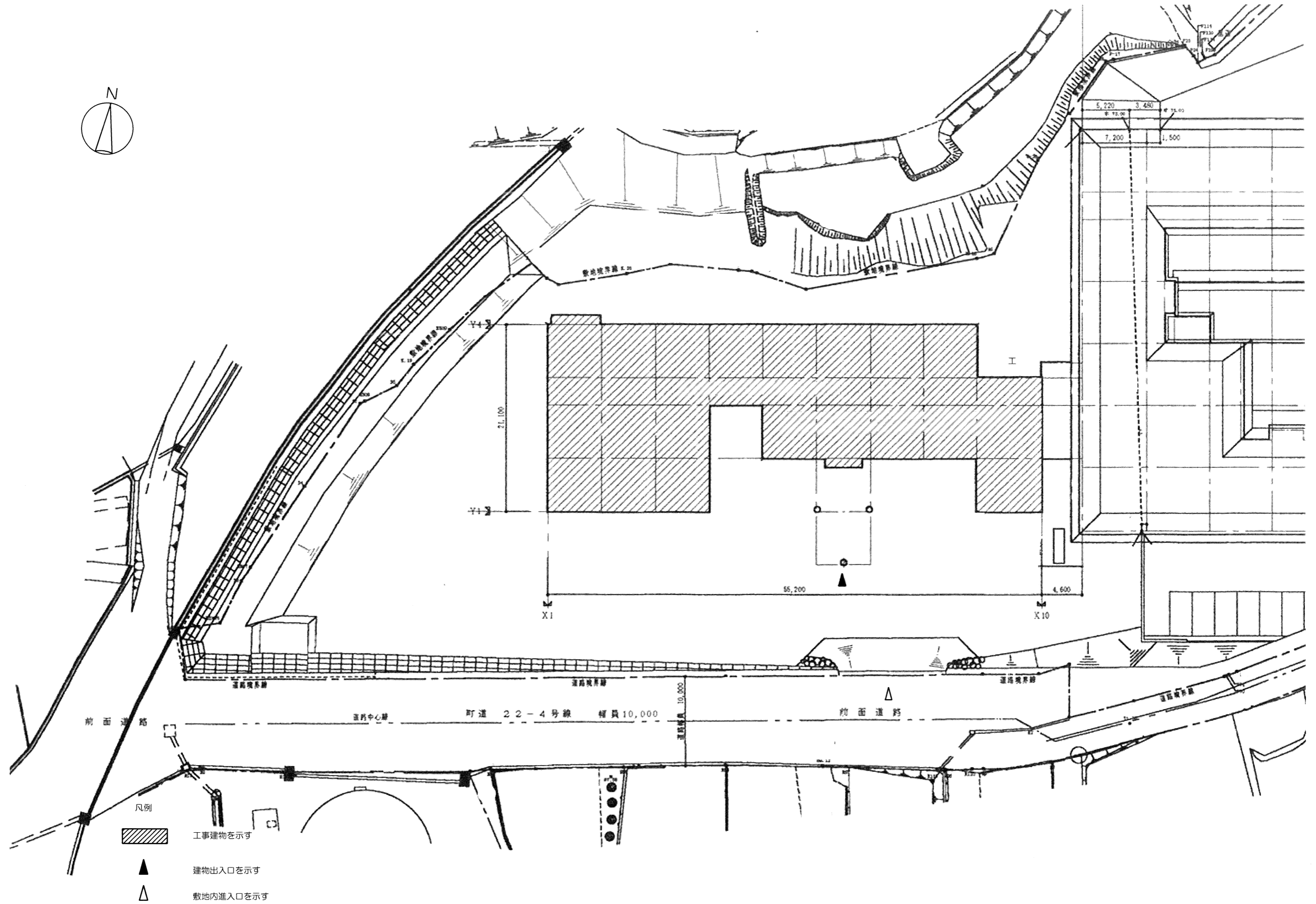
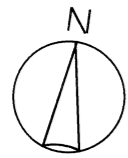
工事場所：京都府綴喜郡井手町大字井手小字弥勒地内

凡例

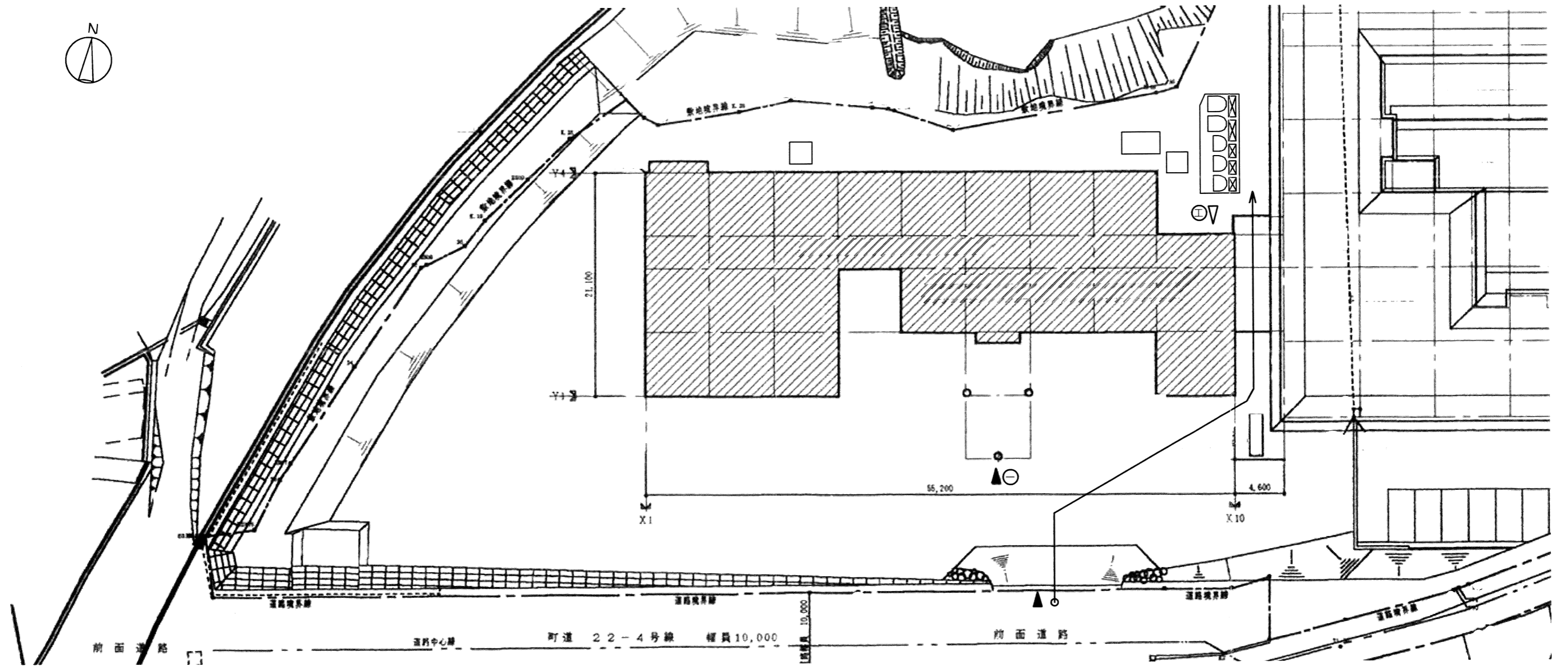
 工事場所を示す

付近見取図 1 : 2,500

				設計番号 設計年度 平成 年 月		工事名 井手町立デイサービスセンター空調設備改修工事		図番 No. M-03	
中村設計 〒600-0001 京都府京都市中京区錦町 TEL: 075-241-9000 FAX: 075-241-9005				下西伊佐 〒600-0001 京都府京都市中京区錦町 TEL: 075-241-9000 FAX: 075-241-9005		図名 付近見取図		A-1 1 : 2,500 A-3 1 : 5,000	
Ver. H29.04						11 枚の内			



- 凡例
- 工事建物を示す
 - 建物出入口を示す
 - 敷地内進入口を示す



概略工程表						
平成29年		平成30年				
12月	1月	2月	3月			
● 現地調査	● 発注手続き	● 空調機器発注期間	● 仮設暖房期間	● 空調取替工事	● 試運転	● 完了検査

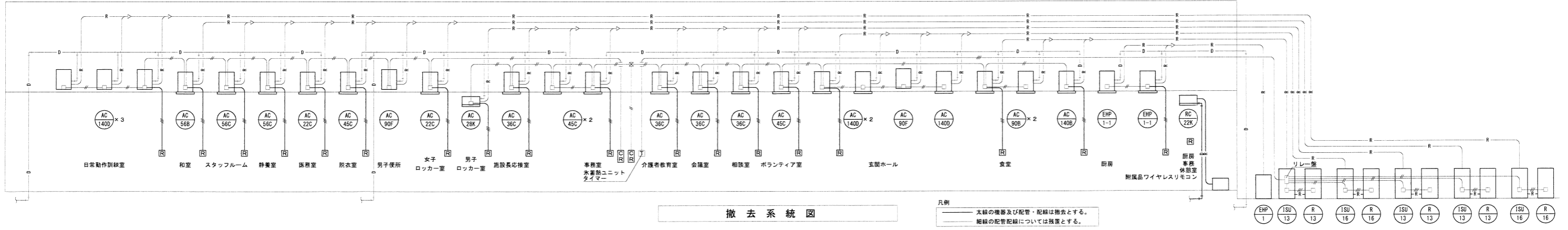
特記) 施工条件について: 建築改修工事 特記仕様書-1 (一般事項の施工条件) 参照

- 凡例
- 工事建物を示す
 - 敷地内進入口を示す
 - 一般者出入口を示す
 - 工事作業員出入口を示す
 - 工事車両進入経路を示す

撤去機器表

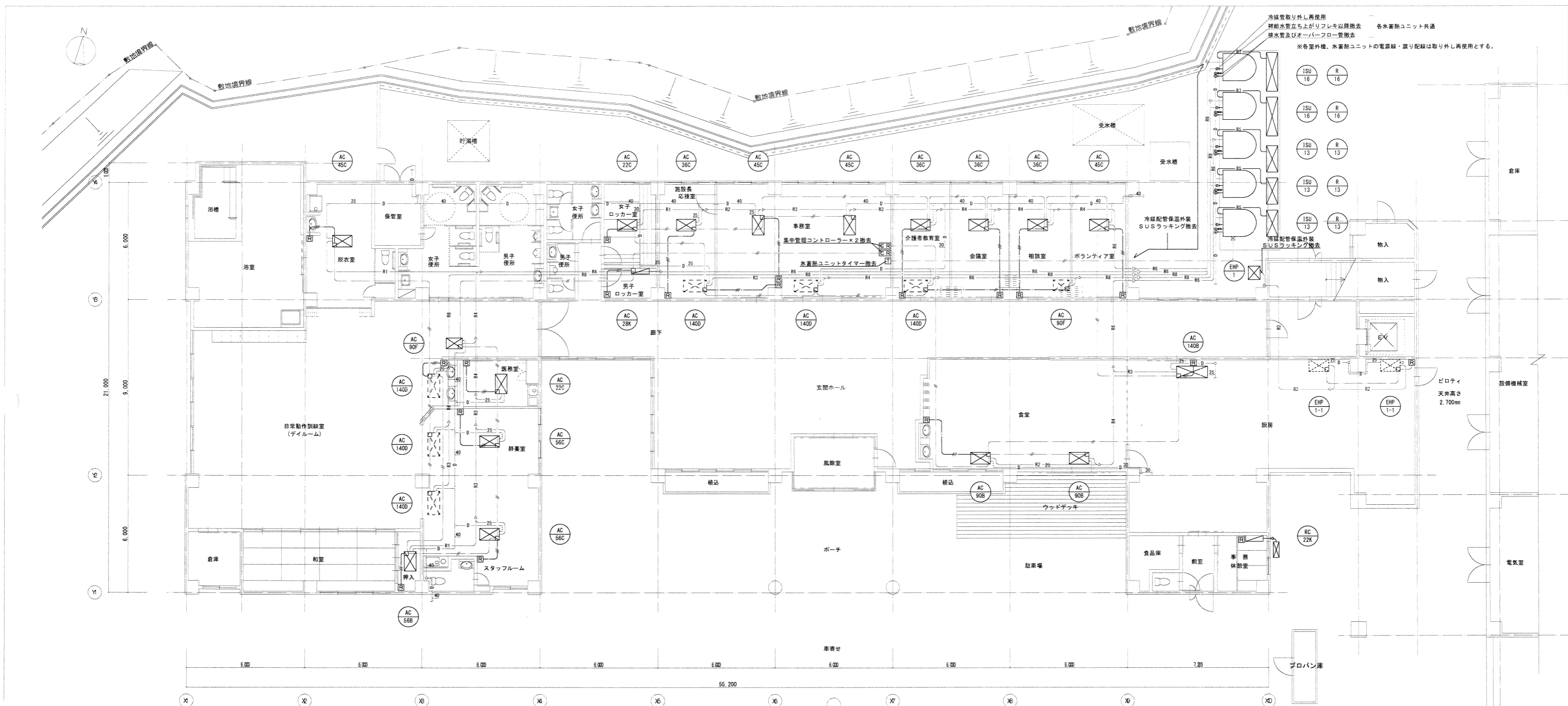
記号	機器名	型式	呼称能力 kW		仕様・附属品	電源	屋内機		屋外機		設置場所	台数
			冷房	暖房			送風機	圧縮機	送風機			
ISU-13	氷蓄熱ユニット	ピークカット &シフト方式			製氷方式：スタック方式 融氷方式：外融方式 水容量：2200kg 製氷量：1320kg 1PF 60% 蓄熱量：580MJ 蓄熱時間：10h 蓄熱利用時間：10h R22-12.0kg 質量：542kg	3 200				屋外	3	
ISU-16	氷蓄熱ユニット	ピークカット &シフト方式			製氷方式：スタック方式 融氷方式：外融方式 水容量：2200kg 製氷量：1590kg 1PF 72% 蓄熱量：670MJ 蓄熱時間：10h 蓄熱利用時間：10h R22-17.44kg 質量：558kg	3 200				屋外	2	
R-13	ビル用マルチ エアコン 屋外機	ピークカット &シフト方式	35.5	31.5	消費電力 冷房：12.13kw 暖房：9.0kw R22-11.0kg 質量：275kg	3 200			7.5	100×2	屋外	3
R-16	ビル用マルチ エアコン 屋外機	ピークカット &シフト方式	45.0	40.0	消費電力 冷房：15.1kw 暖房：12.57kw R22-20.0kg 質量：415kg	3 200			5.5-3.75	100×2	屋外	2
AC-22C	エアコン 屋内機	天井カセット形	2.2	2.5	2方向吹出し 質量：26.0kg	1 200	30				医務室 女子ロッカー室	2
AC-36C	エアコン 屋内機	天井カセット形	3.6	4.0	2方向吹出し 質量：26.0kg	1 200	30				施設長応接室 介護者教育室 会議室 相談室	4
AC-45C	エアコン 屋内機	天井カセット形	4.5	5.0	2方向吹出し 質量：26.0kg	1 200	30				事務室×2 脱衣室 ボランティア室	4
AC-56C	エアコン 屋内機	天井カセット形	5.6	6.3	2方向吹出し 質量：26.0kg	1 200	30				スタッフルーム、静養室	2
AC-140D	エアコン 屋内機	天井超べい形	14.0	16.0	送風量：34m3/min×55Pa 質量：40.0kg	1 200	150				日常動作訓練室×3 玄関ホール×3	6
AC-56B	ビル用マルチ エアコン 屋内機	ビルトイン形	5.6	6.3	中静圧ダクト形 送風量：14m3/min×50Pa 質量：34.0kg	1 200	55				和室	1
AC-90B	ビル用マルチ エアコン 屋内機	ビルトイン形	9.0	10.0	送風量：20m3/min×45Pa 質量：41.0kg	1 200	100				食堂×2	2
AC-140B	ビル用マルチ エアコン 屋内機	ビルトイン形	14.0	16.0	送風量：34m3/min×50Pa 質量：59.0kg	1 200	150				厨房	1
AC-90F	ビル用マルチ エアコン 屋内機	天井カセット形	9.0	8.9	給気処理ユニット 送風量：8.5m3/min×100Pa 質量：48.0kg	1 200	70				日常動作訓練室 玄関ホール	2
AC-28K	ビル用マルチ エアコン 屋内機	壁掛形	2.8	3.2	質量：19.0kg	1 200	30				男子ロッカー室	1
RC-22K	ルームエアコン	壁掛形	2.2	3.4	消費電力 冷房：600w 暖房：850w R22-11.0kg 質量：39.0kg	1 100	30				厨房事務休憩室	1
EHP-1	ビル用マルチ エアコン 屋外機		16.0	18.0	R407C-9.0kg 質量：150kg	3 200			4.0	100	屋外	1
EHP-1-1	ビル用マルチ エアコン 屋外機	天吊形	8.0	9.0	質量：33.0kg	3 200					厨房	2
CR	集中管理コントローラー				一括運転/停止 運転状態表示MAX16グループ						事務室×2	2
R	個別リモコン				ワイヤードリモコン 運転/停止 温度設定							18

※注記 機器の撤去に際し、冷媒ガス（フロンガス）を回収し、適正に処分すること。

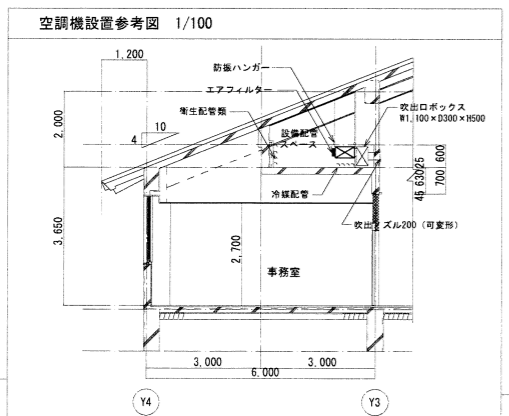
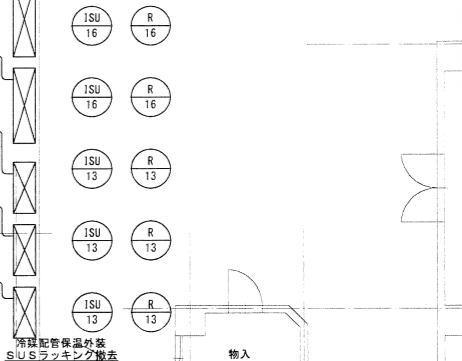


撤去系統図

凡例
 太線の機器及び配管・配線は撤去とする。
 細線の配管配線については残置とする。



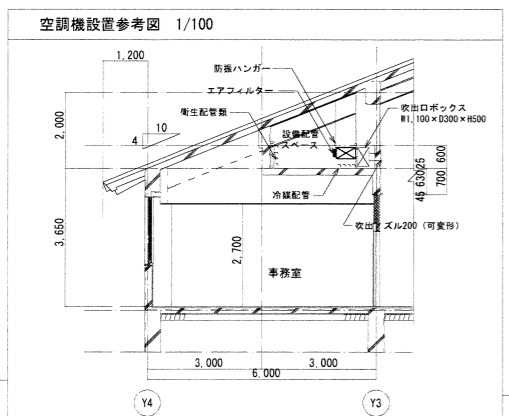
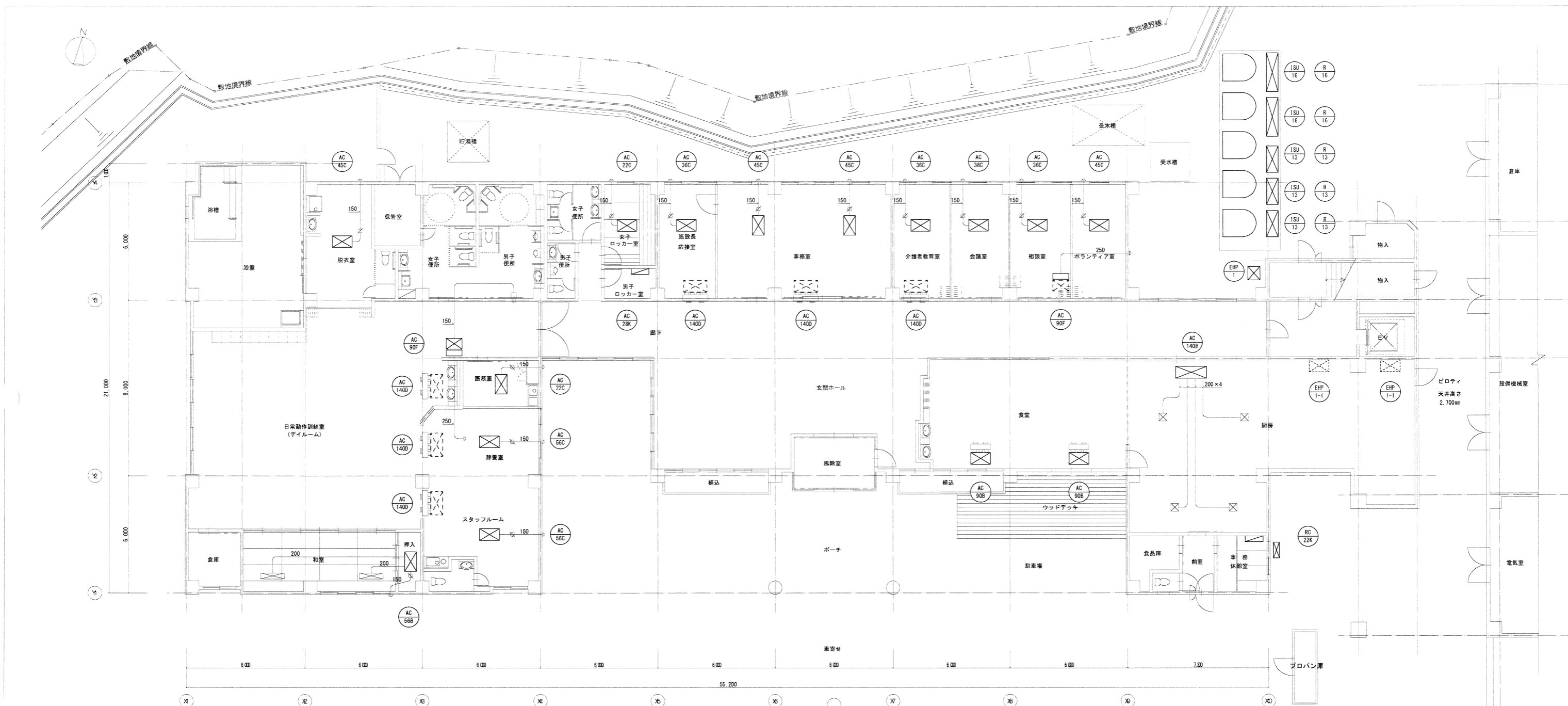
冷媒管取り外し再使用
 排給水管立ち上がりフレキ以降撤去
 排水管及びオーバーフロー管撤去
 ※各室外機、米蓄熱ユニットの電源線・配線は取り外し再使用とする。



記号	名称	配線仕様
R1	リモコン及び配線	リモコンコード30(19)
R2	リモコン及び配線	CV2.0mm3-2C(共巻)
R3	集中管理コネクター配線	CV2.0mm3-2C(19)
R4	外機〜米コック間電線渡り	CV2.0mm3-3C(共巻)
R5	米コック〜米コック間電線渡り	CV2.0mm3-2C(共巻)

記号	冷媒配管サイズ(液管×ガス管)	室内外配線(共巻)
R1	6.4φ×12.7φ	CV2.0mm3-2C
R2	9.5φ×15.9φ	CV2.0mm3-2C
R3	9.5φ×19.1φ	CV2.0mm3-2C
R4	12.7φ×25.4φ	CV2.0mm3-2C
R5	12.7φ×28.6φ	CV2.0mm3-2C
R6	12.7φ×31.8φ	CV2.0mm3-2C
R7	15.9φ×31.8φ	CV2.0mm3-2C
R8	15.9φ×34.9φ	CV2.0mm3-2C

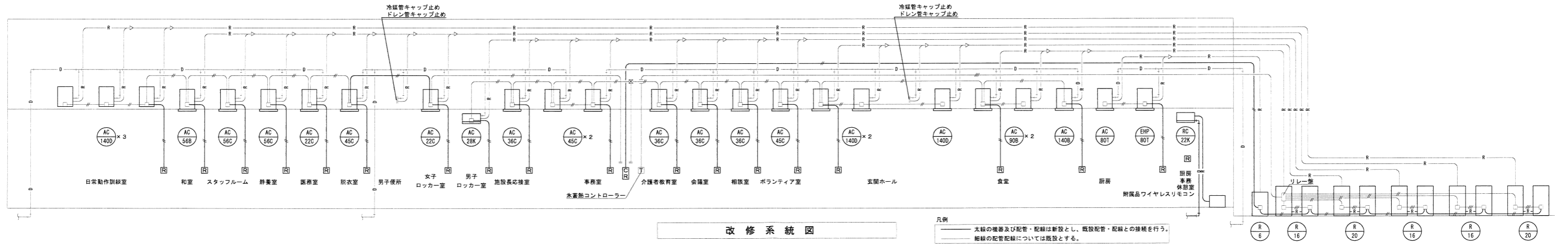
- 凡例
- 太線の機器及び配管・配線は撤去とする。
 - 細線の配管配線については残置とする。
 - ※機器撤去による配管・配線の取り外しを行う。
 - リモコン線の撤去は配線のみとする。
 - ※冷媒管及び保温の仕様についてはメーカー標準付属品とする。
 - ※機器撤去に伴う脚立足場は本工事とする。
- ※機器凡例
- 空調機(天井面)
 - 空調機(天井吊)
 - 空調機(設備配管スペース面) 1FL-3.6FD (空調機設置参考図参照)
 - 空調機(壁面)



- 凡例
- 太線の機器及びダクト等は撤去とする。
 - 細線のダクト等については残置とする。
 - ※機器撤去に伴うダクトの取り外しを行う。
 - ※機器撤去に伴う脚立足場は本工事とする。
- ※機器凡例
- ⊗ 空調機 (天井面)
 - ⊠ 空調機 (天井吊)
 - ⊞ 空調機 (設備配管スペース面) 1FL-3.6FD (空調機設置参考図参照)
 - ▭ 空調機 (壁面)

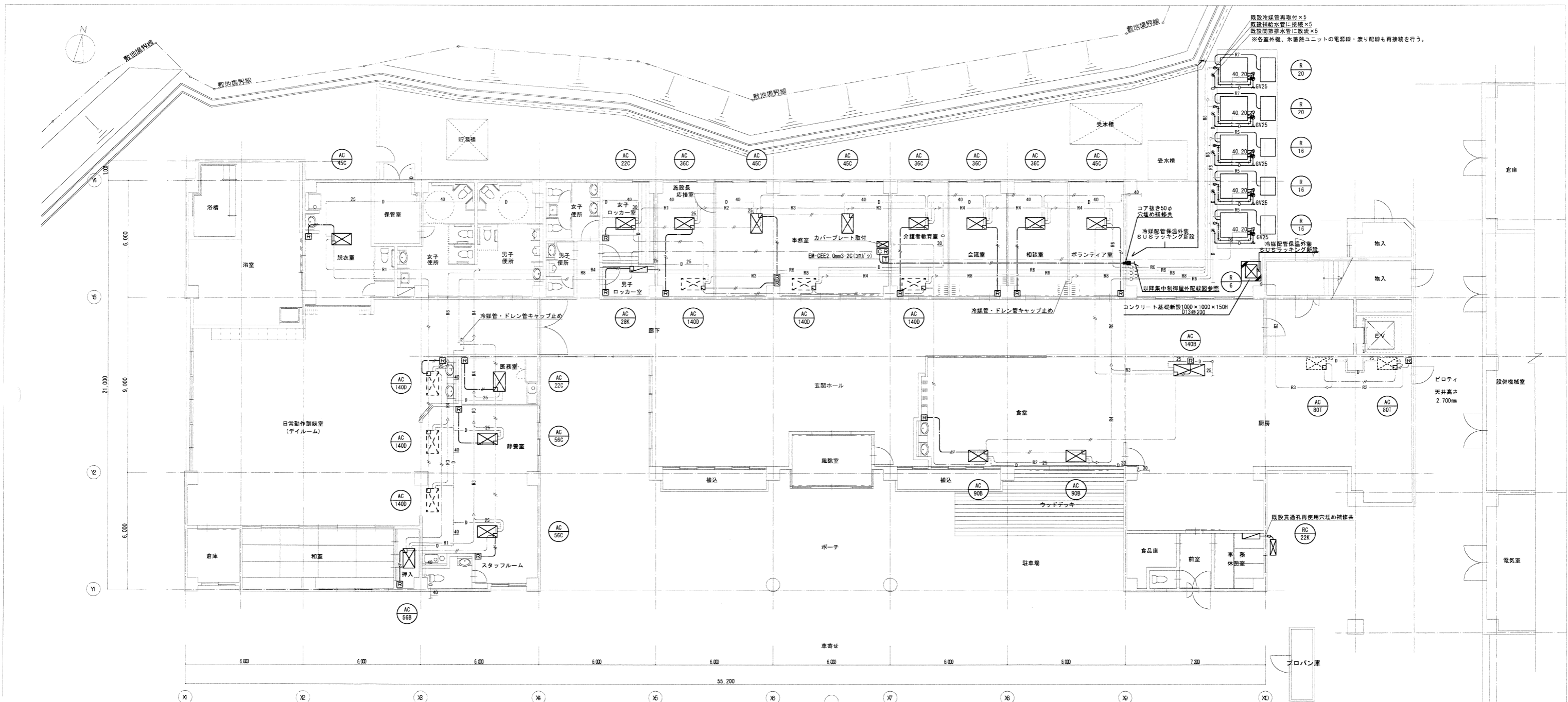
改修機器表

記号	機器名	型式	呼称能力 KW		仕様・附属品	電圧	屋内機		屋外機		設置場所	台数
			冷房	暖房			送風機	圧縮機	送風機			
R-16	水蓄熱ビル用マルチエアコン 屋外機	ピークカット & シフト方式	45.0(蓄熱)	37.5	水蓄熱ユニット 製氷方式:スタテック方式 APF:3.9 蓄熱量:390MJ 蓄熱利用時間:8h 質量:375kg 屋外機 消費電力:蓄熱利用冷房9.19kw 蓄熱非利用冷房10.4kw 暖房10.4kw 質量:236kg R410A	3 200	W	7.4	0.63	屋外	3	
R-20	水蓄熱ビル用マルチエアコン 屋外機	ピークカット & シフト方式	56.0(蓄熱)	50.0	水蓄熱ユニット 製氷方式:スタテック方式 APF:3.9 蓄熱量:410MJ 蓄熱利用時間:8h 質量:375kg 屋外機 消費電力:蓄熱利用冷房14.6kw 蓄熱非利用冷房16.2kw 暖房15.4kw 質量:295kg R410A	3 200	W	10.1	0.47×2	屋外	2	
R-6	ビル用マルチエアコン 屋外機		16.0	18.0	APF5.5 消費電力 冷房:4.47kw 暖房:4.44kw 質量:178kg R410A	3 200	W	3.1	0.32	屋外	1	
AC-22C	ビル用マルチエアコン 屋内機	天井カセット形	2.2	2.5	2方向吹出し 消費電力 冷房:31w 暖房:28w 質量:29kg 化粧パネル、フィルター、O/Aアダプター共	1 200	46	W	W	医務室、女子ロッカー室	2	
AC-36C	ビル用マルチエアコン 屋内機	天井カセット形	3.6	4.0	2方向吹出し 消費電力 冷房:39w 暖房:35w 質量:29kg 化粧パネル、フィルター、O/Aアダプター共	1 200	46	W	W	施設長応接室、介護者教育室 会議室、相談室	4	
AC-45C	ビル用マルチエアコン 屋内機	天井カセット形	4.5	5.0	2方向吹出し 消費電力 冷房:41w 暖房:37w 質量:29kg 化粧パネル、フィルター、O/Aアダプター共	1 200	46	W	W	事務室×2、更衣室 ボランテニア室	4	
AC-56C	ビル用マルチエアコン 屋内機	天井カセット形	5.6	6.3	2方向吹出し 消費電力 冷房:59w 暖房:56w 質量:33kg 化粧パネル、フィルター、O/Aアダプター共	1 200	46	W	W	スタッフルーム、静養室	2	
AC-140D	ビル用マルチエアコン 屋内機	天井型	14.0	16.0	消費電力 冷房:278w 暖房:267w 送風量:39-33-28m3/min×100Pa 質量:45.0kg 吹出口アダプター、フィルターチャンバー、ロングライフフィルター共	1 200	350	W	W	日常動作訓練室×3 玄関ホール×3	6	
AC-56B	ビル用マルチエアコン 屋内機	ビルトイン形	5.6	6.3	消費電力 冷房:188w 暖房:168w 質量:31kg 吸込口ハーフパネル、下送込用チャンバー、フィルター、吹出口アダプター、O/Aアダプター共	1 200	85	W	W	和室	1	
AC-90B	ビル用マルチエアコン 屋内機	ビルトイン形	9.0	10.0	消費電力 冷房:246w 暖房:226w 質量:51.0kg 吸込口ハーフパネル、下送込用チャンバー、フィルター、吹出口アダプター共	1 200	135	W	W	食堂×2	2	
AC-140B	ビル用マルチエアコン 屋内機	ビルトイン形	14.0	16.0	消費電力 冷房:412w 暖房:392w 質量:52.0kg 吸込口ハーフパネル、下送込用チャンバー、フィルター、吹出口アダプター共	1 200	270	W	W	厨房	1	
AC-80T	ビル用マルチエアコン 屋内機	天井形	8.0	9.0	消費電力 冷房:130w 暖房:120w 質量:44kg オイルガードフィルター共	1 200	60	W	W	厨房	2	
AC-28K	ビル用マルチエアコン 屋内機	壁掛形	2.8	3.2	消費電力 冷房:22w 暖房:27w 質量:11kg フィルター共	1 200	40	W	W	男子ロッカー室	1	
RC-22K	ルームエアコン	壁掛形	2.2	2.5	消費電力 冷房:425w 暖房:450w 質量:48.0kg	1 100	20	600	16	厨房事務休憩室	1	
CR	集中管理コントローラー				一括運転/停止 運転状態表示 温度設定					事務室	1	
R	個別リモコン				ワイヤードリモコン 運転/停止 温度設定						18	
SF-1	結露ファン	消音型			ストレートシロッコファン 200φ×510m3/h×100Pa	1 100	45			日常動作訓練室 玄関ホール	2	

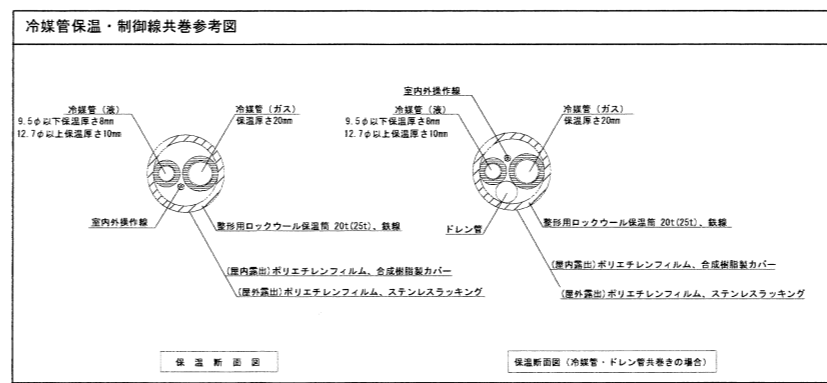
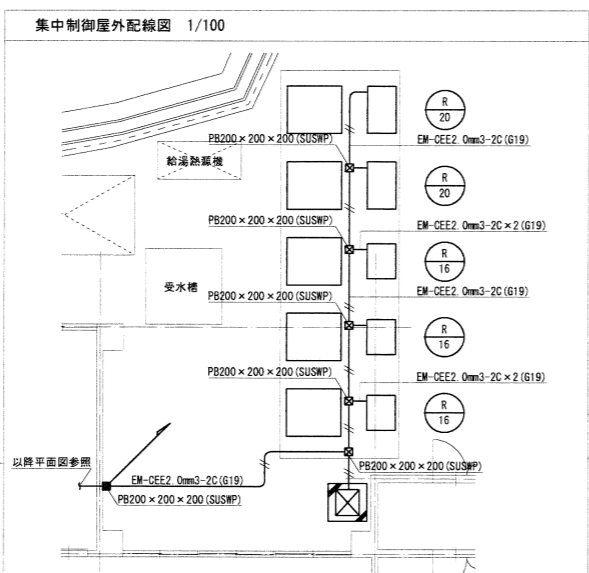
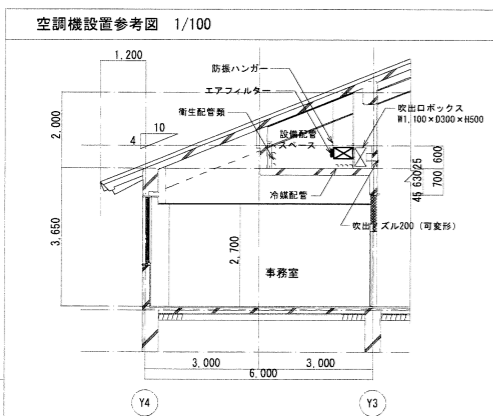


改修系統図

凡例
 太線の機器及び配管・配線は新設とし、既設配管・配線との接続を行う。
 細線の配管配線については既設とする。



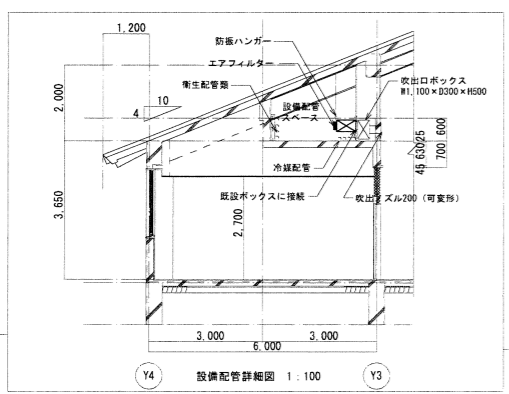
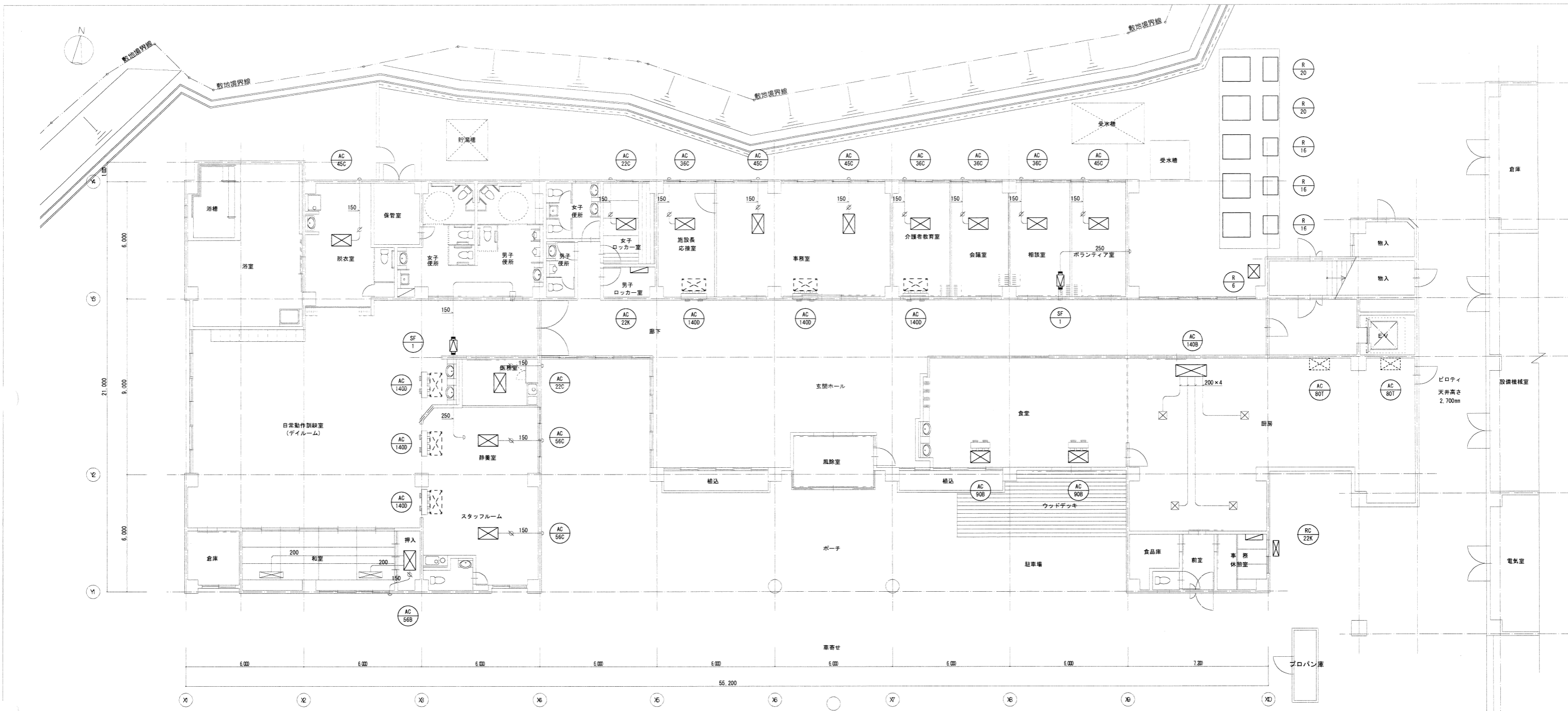
既設冷媒管再取付×5
 既設補給水管に接続×5
 既設配管排水管に接続×5
 ※各室外機、水蓄熱ユニットの電線・配管も再接続を行う。



リモコン及び集中管理コントローラー配線		
記号	名称	配線仕様
□	リモコン及び配線	EM-CEE2 0mm3-2C
□	リモコン差り配線	CVV2 0mm3-2C (共巻)
□	集中管理用配線	EM-CEE2 0mm3-2C
□	外機～水ユニット間電線差り	CVV2 0mm3-3C (25)
□	水ユニット～水ユニット間差り	CVV2 0mm3-2C (19)

冷媒配管サイズおよび室内配線リスト	
記号	室内配線 (冷媒管×ガス管)
R1	6.4φ×12.7φ CVV2 0mm3-2C
R2	9.5φ×15.9φ CVV2 0mm3-2C
R3	9.5φ×19.1φ CVV2 0mm3-2C
R4	12.7φ×25.4φ CVV2 0mm3-2C
R5	12.7φ×28.6φ EM-CEE2 0mm3-2C
R6	12.7φ×31.8φ CVV2 0mm3-2C
R7	15.9φ×31.8φ EM-CEE2 0mm3-2C
R8	15.9φ×34.9φ CVV2 0mm3-2C

- 凡例
- 本線の機室及び配管・配線は新設とする。
 - 断線の配管配線については既設とする。
 - ※機器新設に伴う既設配管・配線の接続を行う。
 - リモコン線の新設は既設管内配線とする。
 - ※冷媒管の保温仕様は特記仕様書による。
 - ※補給管の保温仕様は特記仕様書の給水管の仕様とする。
 - ※機器設置に伴う配線足場は本工事とする。
- ※機器凡例
- 空調機 (天井面)
 - 空調機 (天井吊)
 - 空調機 (設備配管スペース面) 1FL-3.6FD (空調機設置参考図参照)
 - 空調機 (壁面)



- 凡例**
- 太線の機器及びダクト等は新設とする。
細線のダクト等については既設とする。
 - ※新設機器に伴う既設ダクト・ボックスの接続を行う。
機器とダクトの接続はたわみ接手等にて行う。
 - ※機器設置に伴う組立足場は本工事とする。
- ※機器凡例**
- 空調機 (天井面)
 - 空調機 (天井吊)
 - 空調機 (設備配管スペース面) 1R・3.65D
 - 空調機 (壁面)

建築改修工事特記仕様書

【1】 工 事 概 要

- 1. 工事場所 京都府綴喜郡井手町大字井手小字弥勒地内
2. 敷地面積 3,891.64 m^2
3. 建築物概要
4. その他

【2】 適 用 範 囲

現場説明書（質疑回答書を含む）、本特記仕様書、図面、改修標準仕様書に示す範囲とする。
すべての設計図書は相互に補完するものとし、相違がある場合は、上記の順番を優先順位とする。

【3】 工 事 区 分

設計図書による。
別契約の施工上密接に関連する工事との取合い部分が発生する場合は、別紙工事区分表による。

【4】 工 事 仕 様

- 1. 設計図書による。設計図書に記載されていない事項は、「改修標仕」のほか別記の適用基準による。
2. 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
3. 特記事項は、●印の付いたものを適用する。●印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
※印と●印の付いた場合は、共に適用する。※印が抹消された場合は、●印のみ適用する。
4. 項目及び特記事項に記載の（ ）内表示番号は「改修標仕」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

Main specification table with columns for Item (章項目), Particulars (特記事項), and Remarks (事項). Contains detailed technical specifications for wind resistance, agent selection, construction reports, and various construction tasks like reinforcement, waterproofing, and interior works.

Table with columns for Item (章項目), Particulars (特記事項), and Remarks (事項). Contains detailed specifications for building materials, standards, and construction methods.

Footer area containing company logos (井手町立デイサービスセンター, 中村設計), contact information, and a scale bar.

Project identification area including project name (井手町立デイサービスセンター空調設備改修工事), drawing number (No. A-01), and page number (10 of 10).

章 項 目 特 記 事 項 章 項 目 特 記 事 項 章 項 目 特 記 事 項 章 項 目 特 記 事 項

4 外壁改修工事
○タイル張り仕上げ
○樹脂注入方法
※自動式低圧エポキシ樹脂注入法
○手動式エポキシ樹脂注入法
○機械式エポキシ樹脂注入法
エポキシ樹脂
コア抜き検査
○Uカットシール材充填方法

3 欠損部改修
○コンクリート打放し仕上げ
○充填工法
○モルタル塗り仕上げ
○モルタル塗り仕上げ

○モルタル塗り仕上げ
○モルタル塗り仕上げ
○モルタル塗り仕上げ
○モルタル塗り仕上げ
○モルタル塗り仕上げ

○モルタル塗り仕上げ
○モルタル塗り仕上げ
○モルタル塗り仕上げ
○モルタル塗り仕上げ
○モルタル塗り仕上げ

4 浮き部改修工法
○モルタル塗り仕上げ
工 法
○アンカーピン
○アンカーピン部分
○アンカーピン全面
○アンカーピン部分
○アンカーピン全面
○アンカーピン部分
○アンカーピン全面

○モルタル塗り仕上げ
○モルタル塗り仕上げ
○モルタル塗り仕上げ
○モルタル塗り仕上げ
○モルタル塗り仕上げ

○モルタル塗り仕上げ
○モルタル塗り仕上げ
○モルタル塗り仕上げ
○モルタル塗り仕上げ
○モルタル塗り仕上げ

○モルタル塗り仕上げ
○モルタル塗り仕上げ
○モルタル塗り仕上げ
○モルタル塗り仕上げ
○モルタル塗り仕上げ

5 目地改修工法
○目地ひび割れ改修工法
○伸縮目地改修工法
位置 ※改修仕様表4.5.11による
寸法(幅×深さ)

6 樹脂注入工法
建築補修用注入エポキシ樹脂
ひび割れの幅
注入孔の間隔
注入量

7 Uカットシール材
充填工法
○アンカーピン
アンカーピンの材質

8 アンカーピン
注入工法
○アンカーピン
アンカーピンの材質

9 注入口アンカー
ピン注入工法
既製目地材
○アンカーピン
注入工法

10 モルタル塗替え
工法
○アンカーピン
注入工法

11 目地部分張替え工法
施工箇所及び
○アンカーピン
注入工法

○アンカーピン
注入工法
○アンカーピン
注入工法

12 窓下人研面台の
補修
○アンカーピン
注入工法

13 仕上塗材
○アンカーピン
注入工法

○アンカーピン
注入工法
○アンカーピン
注入工法

○アンカーピン
注入工法
○アンカーピン
注入工法

○アンカーピン
注入工法
○アンカーピン
注入工法

4 外壁改修工事
複層仕上塗材
○複層塗材C/E
○複層塗材S/E
○複層塗材E
○複層塗材R/E
○可とう形複層塗材C/E
○防水形複層塗材C/E
○防水形複層塗材E
○防水形複層塗材R/E
○防水形複層塗材RS

可とう形改修用仕上塗材
○可とう形改修塗材E
○可とう形改修塗材R/E
○可とう形改修塗材C/E

防火材料の指定
○アンカーピン
注入工法

○アンカーピン
注入工法
○アンカーピン
注入工法

○アンカーピン
注入工法
○アンカーピン
注入工法

14 既存塗膜等の除去
及び下地処理
○アンカーピン
注入工法

○アンカーピン
注入工法
○アンカーピン
注入工法

15 マスチック塗材
塗り
○アンカーピン
注入工法

16 部分改修工法
○アンカーピン
注入工法

○アンカーピン
注入工法
○アンカーピン
注入工法

○アンカーピン
注入工法
○アンカーピン
注入工法

○アンカーピン
注入工法
○アンカーピン
注入工法

○アンカーピン
注入工法
○アンカーピン
注入工法

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	
5 建具改修工事	7 アルミニウム製建具 (5.2.2) ~ (5.2.5)	外部に面するアルミニウム製建具の性能等級 (表5.2.1) 性能等級 ※ A種 ○ B種 ○ C種 耐風圧性 ※ S-4 ○ ※ S-5 ○ ※ S-6 ○ 気密性 ※ A-3 ○ ※ A-4 ○ 水密性 ※ W-4 ○ ※ W-5 ○ 枠見込み(mm) ※ 70 ○ 100 ※ 100 ○	13 建具用金物 (5.7.2) ~ (5.7.4)	マスターキーの製作 ※ 作成する (グループ、各グループ 個) ○ 作成しない 開き戸 (表5.7.1) 金物の種類 見え掛り部の材質 その他 ○ シリンダー箱錠 ○ 握り玉: ステンレス ○ 取付位置 () ○ インポート錠: アルミニウム合金 () (ステンレス、黄銅)	16 重量シャッター (5.10.2) ~ (5.10.4)	種類 ○ 管理用シャッター (シャッターケース設ける) 耐風圧強度 () ○ 外壁用防火シャッター (シャッターケース設ける) 耐風圧強度 () ○ 屋内用防火シャッター (シャッターケース設ける) ○ 屋内用防煙シャッター (シャッターケース設ける) 開閉方式 ※ 上部電動式 (手動併用) ○ 上部手動式 (電動式シャッターには保護装置を設ける。) スラット及びシャッターケース用鋼板 材質 めっきの付着量 ○ JIS G 3302 ○ Z12又はF12を満足するもの ○ ○ JIS G 3312 ○ Z12又はF12を満足するもの ○	22 木製建具 (16.7.2) ※公共建築工事標準仕様書 (H25版)による。	建具材の含水率の種類 ○ A種 ※ B種 ○ C種 代用樹種の適用 ※ 可 ○ 不可 フラッシュ戸 表面材の合板の種類と適用及び品質等 ○ 表面材の厚さ ※ 図示による ○ かまち戸 かまち及び鏡板の樹種 ※ 図示による ○ 見込み寸法 ※ 36mm ○ ふすま 上張りの種類 ※ 図示による ○ 見込み寸法 ※ 19.5mm ○ 戸ぶすま 見込み寸法 ※ 30mm ○ 紙張り障子 見込み寸法 ※ 30mm ○ 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○
	8 網戸 (5.2.3)	防虫網 網の種類 ※ 合成樹脂製 ○ ガラス繊維入り合成樹脂製 ○ ステンレス製 (SUS316) 形式 ※ 外部可動式 ○ 固定式 線径、網目 ※ 0.25mm以上、16~18メッシュ ○	○ 本締り錠 シリンダー: ステンレス 実用性能項目 ※ グレード 3 以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス建具) 耐じん性能のグレード ○ ○ 空錠 ○ 握り玉: ステンレス ○ 取付位置 () ○ インポート錠: アルミニウム合金 () (ステンレス、黄銅) ○ グレモン錠 インポート錠: 亜鉛合金 () (ステンレス)	17 軽量シャッター (5.11.2) ~ (5.11.4)	開閉方式 ○ 上部電動式 (手動併用) ※ 手動式 (電動式シャッターには保護装置を設ける。) 耐風圧強度 スラット 材質 めっきの付着量 形状 ○ JIS G 3312 ○ Z06又はF06を満足するもの ○ インターロッキング形 ○ JIS G 3322 ○ AZ90を満足するもの ○ オーバーラッピング形	23 ポリカーボネイト樹脂板 種類 _____ 厚さ _____ mm		
	9 樹脂製建具 (5.3.2) ~ (5.3.4)	外部に面する樹脂製建具の性能等級 (表5.3.1) 性能等級 ○ A種 ○ B種 ○ C種 耐風圧性 ※ S-4 ○ ※ S-5 ○ ※ S-6 ○ 気密性 ※ A-4 ○ 水密性 ※ W-4 ○ ※ W-5 ○ 枠見込み(mm) ※ 図示 ○	○ ケースハンドル錠 ステンレス 点検口錠 亜鉛合金程度 () (ステンレス) 丁番 ステンレス () (黄銅) ○ ピボットヒンジ 加工部: ステンレス () (亜鉛合金) 亜鉛合金は木製建具用のみ 点検口軸吊りヒンジ 建具製作所の仕様による ○ 自閉装置付き ○ フロアヒンジ 加工部: ステンレス () (本体は鋼) ドアクローザー ○ ヒンジ・クローザー (丁番型) 鋼 (焼付け塗装) ○ 遮音閉り機能付き ○ ヒンジ・クローザー (ヒンジ型) 加工部: ステンレス () (本体は鋼) ○ ドアクローザー 本体: アルミニウム合金 加工部: 鋼 (焼付け塗装) 閉鎖順位調整器 ステンレス () (鋼)	18 オーバーヘッドドア (5.12.2) ~ (5.12.4)	セクション材 ※ スチールタイプ ○ アルミニウムタイプ ○ アルミ・ガラスタイプ 耐風圧性能 ※ バランス式 ○ チェーン式 ○ 電動式 (電動式には保護装置を設ける。) 開閉方式 ※ スタンダード形 ○ ローヘッド形 収納形式 ※ ハイリフト形 ○ パーテカル形 ガイドレール等 ※ 溶融亜鉛めっき鋼板 ○ ステンレス鋼板	6 内装改修工事		
	10 鋼製建具 (5.4.2) ~ (5.4.4)	外部に面する建具の耐風圧性 ○ S-4 ○ S-5 ○ S-6 (表5.2.1) 簡易気密扉の気密性、水密性 ※ 適用する ○ 適用しない (表5.4.1) ○ 防音ドアセット、防音サッシとする場合 (遮音性の等級) _____ ○ 断熱ドアセット、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級) _____ ○ 耐震ドアセットとする場合 (面内変形追従性の等級) _____ JISただし書き建具の寸法許容差 (これ以外は改修標準による) ※ 製造所標準製作規定寸法許容差による 鋼板 ○ 溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯 (JIS G 3302による) めっきの付着量 ※ Z12又はF12を満足するもの ○ ○ 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯 (JIS G 3317による) めっきの付着量 ※ Y08を満足するもの ○ 鋼板の厚さ ※ 表5.4.2 (片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く) _____ mm	○ 閉鎖順位調整器 ステンレス () (鋼) ○ 押棒・押板 () (ステンレス、黄銅、合成樹脂) ○ 取付位置 () 上げ落し 亜鉛合金程度 () (ステンレス) (フランス落し) ○ アルミクローザー 鋼 (加めめっき) () (ステンレス) ○ 戸当り 亜鉛合金程度 () (ステンレス、黄銅) ○ あり止め付き	19 ガラス (5.13.2) ~ (5.13.4)	材料 種類 種類等 種類 種類等 ○ フロートガラス ○ 強化ガラス ○ 型板ガラス ○ 熱線吸収ガラス ○ 網入板ガラス ○ 複層ガラス ○ 網入板ガラス ○ 熱線反射ガラス ○ 合わせガラス ○ 倍強度ガラス ○ _____ ○ _____	① 揮発性有機化合物対策 (6.5.2)~(6.5.4) (6.8.2) (6.9.3) (6.10.2) (6.11.2) (6.11.4) (6.11.5) (6.13.2) (6.14.2) (6.16.4) 2 他部分との取り合い等 (6.1.3) 3 既存床の撤去等 (6.2.2)		
	11 鋼製軽量建具 (5.5.2) ~ (5.5.4)	簡易気密型ドアセットの気密性 ※ 適用する (A-3) ○ 適用しない ○ 防音ドアセット、防音サッシとする場合 (遮音性の等級) _____ ○ 断熱ドアセット、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級) _____ ○ 耐震ドアセットとする場合 (面内変形追従性の等級) _____ 鋼板 ※ 表面処理亜鉛めっき鋼板 ○ ビニル被覆鋼板 ○ カラー鋼板 ○ ステンレス鋼板 鋼板の厚さ ※ 表5.5.1 (片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く) _____ mm 召合せ、縦小口包み板の材質 ※ 鋼板 ○	引き戸 (表5.7.1) 金物の種類 見え掛り部の材質 その他 引戸用錠 木製建具の場合: シリンダー等はステンレス ○ 取付位置 () ○ クレセント 建具製作所の仕様による。 ○ 取付位置 () 引手類 木製建具の場合: ステンレス () (黄銅) 戸車 (上吊りの場合を除く) レール ステンレス、黄銅は木製建具用のみ (上吊りの場合を除く) () (アルミニウム合金 ○ 黄銅)	20 ガラス留め材 (5.13.2)	ガラス溝の大きさ (表5.13.1) 種類 面クリアランス エッジクリアランス 掛り代 ○ アルミニウム建具 ※ 表5.13.1 ※ 表5.13.1 ※ 表5.13.1 ○ 鋼製建具 ○ ○ ○ ○ ステンレス建具 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 熱線反射ガラスの映像調整 ○ 行わない ○ 行う ()	4 既存壁の撤去等 (6.3.2)		
	12 ステンレス製建具 (5.6.2) ~ (5.6.5)	外部に面する建具の耐風圧性 ○ S-4 ○ S-5 ○ S-6 (表5.2.1) 簡易気密扉の気密性、水密性 ※ 適用する ○ 適用しない (表5.4.1) ○ 防音ドアセット、防音サッシとする場合 (遮音性の等級) ○ T-1 ○ T-2 ○ T-3 ○ 断熱ドアセット、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級) ○ H-2 ○ H-3 ○ 耐震ドアセットとする場合 (面内変形追従性の等級) ○ D-1 ○ D-2 ステンレス鋼板 (屋外) ※ SUS304 ○ SUS430J1L ○ SUS443J1 ステンレス鋼板 (屋内) ※ SUS304 ○ SUS430J1L ○ SUS443J1 ○ SUS430 JISただし書き建具の寸法許容差 ※ 製造所標準製作規定寸法許容差による 表面仕上げ ※ H L ○ 鏡面 曲げ加工 ※ 普通曲げ ○ 角出し曲げ	14 自動ドア開閉装置 (5.8.2) ~ (5.8.3)	21 ガラスブロック (5.13.5)	寸法 (mm) 厚さ (mm) 色 調 パターン 防火認定 ○ ○ クリア ○ 白 () ※ なし x ○ 図示 ○ 乳白 ○ 熱線反射 ○ あり ※ 品質規格はJIS A5212による ※ 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定めること。 ○ 壁用金属種及び補強材 _____ ○ 力骨 材質 ※ SUS304 ○ _____ 寸法・形状 ※ 径5.5mmのはしご形状横筋及び単筋 ○ _____ ○ 化粧目地モルタルの色 _____ ○ 金属製化粧カバー 材質 ※ SUS304 ○ _____ 寸法・形状 ※ 図示による ○ _____ ○ 伸縮調整目地の位置 _____			
			15 自閉式上吊り引戸装置 (5.9.3)					

6	内装改修工事	5 木下地等 (6.5.1) ~ (6.5.9)	表面仕上げの程度 ○ A種 ○ B種 ○ C種 含水率 下地材 ※ A種(15%以下) ○ B種(20%以下) 造作材 ※ A種(15%以下) ○ B種(18%以下) 以下に規定されているものは、その規定による。 「製材の日本農林規格」による製材 ○ 下地用針葉樹製材 使用箇所 樹種 寸法 等級 形状 含水率 ○ 1級 ※2級 ○ 造作用針葉樹製材 使用箇所 樹種 寸法 等級 形状 含水率 ○ 無節 ○ 上小節 ○ 小節 ○ 並 ○ 広葉樹製材 使用箇所 樹種 寸法 等級 形状 含水率 ○ 特等 ※1等 ※10%以下 ○ 2等 ○
		「製材の日本農林規格」以外の製材 (表12.2.2)	使用箇所 樹種 寸法 材面の品質 防虫処理 難燃処理 含水率 ※A種 ○B種
		使用木材のうち杉、ひのきについては京都府内産木材とする。 ○ 工事完成までに、京都府内産木材証明書及びびくた'マイレージ'CO2計算書を提出すること。 証明書及び計算書の発行に係る手続きについては次の機関による。 京都府地球温暖化防止活動推進センター TEL: 075-211-8895 URL: http://www.kcfca.or.jp/wood/index.php 注) 証明書は製材所、流通業者の全てが取扱い事業者でなければ発行されない。 詳細は上記URLを参照すること。 ○ 工事完成までに、京都府内産木材の産地証明書を提出すること。	
		代用樹種 ※可(表6.5.4) (上記府内産木材の他、特記されているものは不可) ○ 不可	
		「集材材の日本農林規格」による造作用集材材 ○ 造作用集材材 使用箇所 樹種 寸法 見付材面の品質 ※1等 ○2等 ○ 化粧ばり造作用集材材 使用箇所 化粧樹種名 芯材樹種名 寸法 化粧板厚 見付材面の品質 ※1等 ○2等 ○ 化粧ばり構造用集材材 使用箇所 化粧樹種名 芯材樹種名 寸法 化粧板厚	
		「集材材の日本農林規格」以外の造作用集材材 ○ 造作用集材材 使用箇所 樹種 寸法 見付材面の品質 含水率 ※15%以下 ○	
		○ 化粧ばり造作用集材材 使用箇所 化粧樹種名 芯材樹種名 寸法 化粧板厚 見付材面の品質 含水率 ※15%以下 ○	
		「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材 ○ 造作用単板積層材 使用箇所 厚さ 表面の品質 防虫処理 ○表面化粧加工なし ○適用する ○1等 ○2等 ○3等 ○適用しない ○表面化粧加工あり ○天然木化粧加工 ○塗装加工	
		「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材 ○ 造作用単板積層材 使用箇所 厚さ 表面の品質 含水率 防虫処理 ○表面化粧加工なし ※14%以下 ○適用する ○ ○ ○適用しない ○表面化粧加工あり ○天然木化粧加工 ○塗装加工	

6	内装改修工事	6 軽量鉄骨天井 (6.6.2) ~ (6.6.4)	野縁等の種類 屋内 ○19型 ○25型 (表6.6.1) 地下 (6.6.2) ~ (6.6.4)
		7 軽量鉄骨壁下地 (6.7.3)	
		8 ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り (6.8.2)	

6	内装改修工事	床張り用合板等 普通合板 使用箇所 厚さ 樹種名 接着程度 板面の品質 その他処理 ※押入れ、物入れ ※5.5mm ※1類 広葉樹 ○防虫処理 ○ 2類 ※2等以上 ○難燃処理 ○ 針葉樹 ※C-D以上 ○防虫処理
		構造用合板 使用箇所 等級 厚さ 樹種名 接着程度 板面の品質 その他処理 ※畳床下地材、70- ※2級以上 ※12mm ※1類 ※C-D以上 ○防虫処理 リッパ張り下地材 ○ ○ ○特類 ○
		パーティクルボード 使用箇所 厚さ 各種区分 ※15mm ○ ※13Pタイプ又は13Mタイプ ○
		構造用パネル 使用箇所 等級 厚さ
		防腐・防蟻処理 ※行う (○ 薬剤の加圧注入 ○ 薬剤の塗布) ○ 行わない 防虫処理 ※行う (範囲: ラワン材等 ※「製材の日本農林規格」による保存処理 K1) ○ 行わない
		野縁受け・吊りボルト・インサートの間隔 _____ mm 周辺部の端からの寸法 _____ mm 野縁の間隔 _____ mm はずれ留め補強 ※有り ○無し 既存の埋込みインサートの使用 ※再利用しない ○ 再利用する あと施工アンカーの引抜き試験 ○ 行う (箇所以上、N/箇所) ※ 行わない
		開口補強 吊りボルト間隔が900mmを超える場合の補強方法 ※図示による ○ 天井のふところの補強 (1.5m以上3m以下) ○ 行う (3mを超える) ○ 行う (図示による) 天井下地材における耐震性を考慮した補強 ○ 行う ※行わない 屋外の軒天井、ピロティ天井等における耐風圧性を考慮した補強 ○ 行う ※行わない
		スタッド、ランナー等の種類 (表6.7.1) ※表6.7.1におけるスタッドの高さによる区分に応じた種類 ○ スタッドの高さが5mを超える場合 ※図示による ○
		○ ビニル床シート 区分 種類 記号 厚さ(mm) 色柄 工法 施工箇所 発泡 ○ 単層ビニル床シート T S 無層 ※ 複層ビニル床シート F S ○ 2.5 ※ 無地 ※ 熱溶接 ※ 仕上表による ※ 2.0 発泡 ○ 発泡複層ビニル床シート H S ○ ○ マーブル 泡層 有 ○ クッションフロア K S
		○ ビニル床タイル 区分 種類 記号 厚さ(mm) 品質・規格 ※ コネ'シヨビ'ニル床タイル K T 接着 ○ 単層ビニル床タイル T T ○ 2.5 形 ○ 複層ビニル床タイル F T ※ 2.0 置数 ○ 置数型ビニル床タイル F O A ○ 形 ○ 薄型置数型ビニル床タイル F O B

6	内装改修工事	○ 帯電防止床シート又はタイル 種類 性能 厚さ (mm) ○ 帯電防止床シート ※ 体積抵抗値 1.0×10 ⁹ Ω以下 ○ 帯電防止床タイル ○
		○ 視覚障害者用床タイル 種類 寸法 (mm) 厚さ (mm) ○ 塩化ビニル系 ※ 300mm角 ○ レジンコンクリート系 ○ 150mm角 ○ 磁器又はセラミックタイル ○
		○ 耐動荷重性床シート 種類 厚さ (mm) 備考 ○ ○ ○ ○
		○ 防滑性床シート又は床タイル 種類 性能 厚さ (mm) ○ ○ ○ ○
		○ ビニル幅木 種類 寸法 (mm) 厚さ (mm) ○ 軟質 ○ 硬質 ※ 60 ○ 75 ○ 100 ○ ※ 1.5 ○ 2.0
		○ ゴム床タイル張り 色柄 厚さ (mm) 寸法 (mm) 品質・規格
		○ 織じゅうたん 種類 織り方 バイル形状 帯電性 施工箇所 ○ A種 ○ B種 ○ C種
		○ タフテッドカーベット バイル形状(バイル長さ) (mm) 工法 帯電性 施工箇所 ※ グリッド工法 ○ 適用 ○ 全面接着工法
		○ ニードルパンチカーベット 厚さ(mm) 帯電性 施工箇所 ○ 適用
		○ タイルカーベット 種類 バイル形状 寸法(mm) 総厚さ(mm) 施工箇所 ※ 1種 ※ ループバイル ※ 500×500 ※ 6.5 タイルカーベットの敷き方 平場部分 ※ 市松敷き ○ 階段部分 ※ 模様流し ○
		下敷き材 ※ JIS L 3204(反毛フェルト)の第2種2号 呼び厚さ8mm ○ 見切り、押さえ金物 材質、形状等 ※ 図示による ○
		厚膜型塗床材 ○ 弾性ウレタン樹脂系塗床材 ※ 平滑仕上げ ○ 防滑仕上げ ○ つや消し仕上げ 塗厚(mm) ○ ○ エポキシ樹脂系塗床材 ※ 薄膜流し膜仕上げ ○ 厚膜流し膜仕上げ (○ 平滑 ○ 防滑) ○ 樹脂モルタル仕上げ (○ 平滑 ○ 防滑)
		薄膜型塗床材 ○ エポキシ樹脂系塗床材
		単層フローリング (表6.11.1)~(表6.11.6) 種類 別樹種 厚さ(mm) 下張り 工法 備考 ○ フローリング ※ なら ○ 8 ※ あり 釘留め工法 ボード 1等 ○ ○ 12 ○ なし ○ 根木張り工法 ○ 15 ○ ○ 直張り工法 ○ ○ ○ 接着工法
		○ フローリング ※ なら ○ 8 ブロック 1等 ○ ○ 15 ○ 接着工法 ○ ○ ○ モザイク ○ ○ ○ 接着工法 パーケット 1等

6	内装改修工事	複合フローリング 種類 別樹種 厚さ(mm) 下張り 工法 備考 ○ 1×6タイプ ○ 8 釘留め工法 ○ フローリング ※ なら ○ 15 ※ あり ○ 根木張り工法 ボードタイプ ○ ○ ○ なし ○ A種 ○ B種 ○ ※ C種 ○ 直張り工法 ○ A種 ○ B種 ※ C種 ○ 接着工法
		※ 下張りは合板張りによる。ただし、C種釘留め工法は下張りなしとする。 接着工法のフローリング裏面の緩衝材 ※ 合成樹脂発泡シート ○
		仕上げ塗装 ※ ウレタン樹脂ワニス塗り (1液形) B種 ○ オイルステインの上ワックス塗り ○ 生地そのままワックス塗り
		12 畳敷き (6.12.2) 種別 ○ A種 ○ B種 ○ C種 ○ D種 (表6.12.1)
		⑬ セっこうボード、その他ボード及び合板張り (6.13.2) (6.13.3) 種別 ※ 表6.13.1による JIS規格品とする (表6.13.1) 種類 規格、厚さ (mm) 等 ● セっこうボード (GB-R) ※ 12.5 (不燃) ● 9.5 (準不燃) ● 化粧セっこうボード (GB-D) ○ 杉板模様 ○ 12.5 (不燃) ● トラバーチン模様 (等級下地は専用のものとする) ○ 不燃積層セっこうボード (GB-NC) ○ トラバーチン模様 ※ 9.5 (不燃) ○ 模様なし ○ シージングセっこうボード (GB-S) ○ 15 (不燃) ○ 12.5 (準不燃) ※ 9.5 (準不燃) ○ 強化セっこうボード (GB-F) ○ 21 (不燃) ○ 15 (不燃) ○ 12.5 (不燃) ○ ロックウール吸音ボード (RW-B) ※ 25 ○ ○ グラスウール吸音ボード (GW-B) ※ 25 ○ ○ 吸音あなあきセっこうボード (GB-P) ○ 9.5 (準不燃) ● ロックウール化粧吸音ボード (DR) 内部用 フラット ● 12 (不燃) ※ 9 (不燃) 立体的模様 ● 19 (不燃) ※ 15 (不燃) 軒天用 フラット ○ 12 (不燃) ※ 9 (不燃) 立体的模様 ○ 15 (不燃) ※ 12 (不燃) ● けい酸カルシウム板 (0.8FK) タイプ2 (無石棉) ○ 8.0 ● 6.0 ○ ○ メラミン樹脂化粧板 JIS K 6903 による ※ 1.2 ○ 難燃木毛セメント板 ○ 30 ○ 25 ○ 20 ○ 15 ○ 断熱木毛セメント板 ○ 30 ○ 25 ○ 20 ○ 15 ○ 普通合板 厚さ 接着の程度 表面樹種 板面の品質 防虫処理○ 行う ○ 天然木化粧合板 厚さ 接着の程度 化粧板樹種 ○ なら ○ しおじ 防虫処理○ 行う ○ 特殊加工化粧合板 厚さ 接着の程度 化粧加工の方法 表面性能 ○ F ○ FW ○ W ○ WS 防虫処理○ 行う ○ その他下張り用合板
		軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材 ※ アクリル系シーリング ○ ウレタン系シーリング ○ ジョイントコンパウンド 合板類の張付け (表6.13.3) ○ A種 ※ B種 セっこうボードの目地処理 (表6.13.5) ○ 目透かし ○ 突付け ○ 目透かし
		14 壁紙張り (6.14.2) (6.14.3) 防火性能・種類・規格・施工箇所 ※ 図示による ○ 下表による 施工箇所 防火性能 品質・規格
		下地調整 モルタル及びプラスター面 ○ RA種 ※ RB種 (表7.2.4) コンクリート面 ○ RA種 ※ RB種 (表7.2.5) セっこうボード面 ○ RA種 ※ RB種 (表7.2.7)
		15 天井廻り縁 材質 ○ アルミニウム製 ○ 塩化ビニル製
		16 モルタル塗り (6.15.2) ~ (6.15.6) 既製目地材 ○ 適用する (形状 _____) 床塗り 目地の設置 ※ 有り (※ 押目地 ○ _____) ○ 無し

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項				
6 内 装 改 修 工 事	17 タイル張り (6.16.2) ~ (6.16.4)	伸縮調整目地等 床面 ※縦・横とも4mm以内ごと ○ 壁面 ※図示による ○ 施工後の確認及試験 浮きの確認 ※全面打診による確認を行う 接着力の試験 ※接着力試験機による引張接着強度の測定を行う ○行わない	7 塗 装 改 修 工 事	④ 塗装工程 (7.4.2) ~ (7.15.2)	工程の種類 (表7.4.1)~(表7.14.1) 記号名称 種別 SOP 合成樹脂調合ペイント塗り 木部 新規外部 ※A種 ○B種 ○C種 新規内部 ○A種 ※B種 ○C種 塗替え ○A種 ※B種 (外部の場合工程2.工程4は行わない) ○C種 鉄鋼面 ○A種 ※B種 ○C種 亜鉛めっき面 鋼製建具 ※A種 ○B種 ○C種 塗替え ○A種 ※B種 ○C種 その他塗替え ○A種 ※B種 ○C種 ・新規	8 1 2 耐 震 補 強 工 事 (コ ン ク リ ー ト 工 事)	1 コンクリートの強度 (8.1.3) (8.1.4) (8.9.2)	コンクリートの種別 ※I類 ○II類 ○普通コンクリート 打設部位 Fc(N/mm ²) スランプ(cm) 備 考 構造体 基礎 ※2.1 ○ 上部 ※2.1 ○ ○軽量コンクリート 打設部位 Fc(N/mm ²) スランプ(cm) 備 考 ※2.1 ○ ※構造体コンクリートの発注強度は以下のとおりとする。 [Fc + 構造体強度補正值(S)] N/mm ² (標仕6.14.1によるもの及び土間コンクリートは構造体強度補正は行わない)	8 1 2 耐 震 補 強 工 事 (コ ン ク リ ー ト 工 事)	8 暑中コンクリート (8.10.2)	※暑中における構造強度補正值(S) 地 域 日平均気温が25度を超える期間(打設日) 補 正 値 北 部 地 域 7月11日~8月31日 ※6N/mm ² 中 部 地 域 7月21日~8月31日 ○ 南 部 地 域 7月1日~9月10日 ○3N/mm ² 設計基準強度 ※18N/mm ² ○ スランプ ※15cm又は18cm ○ セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ○高炉セメントB種 ○フライアッシュセメントB種 適用箇所 ※標準仕様書6.14.1(e)による箇所 ○図示による()
	18 セルフレベリング 材塗り(6.17.2)	※種類及び品質は表6.17.1による ○せっこう系 ○セメント系 厚さ(mm) ○10 ○15 ○		① 塗装材料 (7.1.3)	塗料のホルムアルデヒド等の放散量 ※☆☆☆☆ ○ (表7.2.1)~(表7.2.7)		NAD フッ素樹脂系 非水分散型塗料塗り ○A種 ※B種	2 普通コンクリートの材料 (8.2.5)		※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ○高炉セメントのB種(施工箇所) ○シリカセメント ○フライアッシュセメントのB種(施工箇所)	9 寒中コンクリート
7 塗 装 改 修 工 事	② 下地調整 (7.2.2) ~ (7.2.7)	素地 種別 備考 木部 ○RA種 ※RB種 ○RC種 鉄鋼面 ○RA種 ※RB種 ○RC種 亜鉛めっき鋼面 ○RA種 ※RB種 ○RC種 モルタル及び プaster面 ○RA種 ※RB種 ひび割れ部の補修 ○適用する ○適用しない コンクリート面及び ALCパネル面 ○RA種 ※RB種 ひび割れ部の補修 ○適用する ○適用しない コンクリート面及び 押出成形シート面 ○RA種 ○RB種 ひび割れ部の補修 ○適用する ○適用しない せっこうボード及び その他ボード面 ○RA種 ※RB種 ○RC種	8 1 耐 震 補 強 工 事 (鉄 筋 工 事)	1 鉄筋の種類 (8.2.1)	異形鉄筋 種類の記号 径(mm) 備 考 ※SD295A D16以下 ※SD345 D19以上 ○ ※SD295AはFc<21以上の場合、壁筋及びスラブ筋に適用する	3 構造体強度補正值 (8.2.5)	※気温による構造体強度補正值(S) (表8.2.4) 予想平均気温(℃) 補正值 期 間 (打 設 日) 普通 早強 (S) 南部地域 中部地域 北部地域 8以上 5以上 3 3/6 ~ 6/31 3/11 ~ 7/20 3/11 ~ 7/10 N/mm ² 9/11 ~ 11/15 9/1 ~ 11/5 9/1 ~ 10/31 0以上 0以上 6 11/16 ~ 3/5 11/ 6 ~ 3/10 11/ 1 ~ 3/10 8未満 5未満 N/mm ² 南部地域(京都市(一部を除く)、旧八木町、旧園部町以南の市町村) 北部地域(宮津市、旧加悦町以北の市町) 中部地域(上記以外の市町、旧美山町及び旧京北町を含む)	8 1 3 耐 震 補 強 工 事 (あ と 施 工 ア ン カ ー 工 事)	1 あと施工アンカー (8.2.4) (8.12.2)	○金属系アンカー 引張耐力 セン断耐力 径 埋込み長さ セット方式 ※本体打込み式改良型 ○ 接合筋 種類 長さ 径 ○接着系アンカー 引張耐力 セン断耐力 種類 ※カプセル型回転・打撃式 ○ アンカー筋 ※改修標仕表8.2.1の異形棒鋼 径 埋込み長さ 新設壁内への定着長さ	
	3 錆止め塗料塗り (7.3.2) (7.3.3)	錆止め塗料の種類 (表7.3.1)~(表7.3.4) 塗面 種別 屋外 屋内 規格名称 塗料種類 塗装工程種別 備考 鉄 A種 ※ 鉛・カドミウム及び亜鉛 1種 新規鉄鋼面 ※A種 ○B種 ○C種 見え掛り部分 鋼 面 B種 ○ 水系及び亜鉛 見え隠れ部分 ※A種 ※B種 ○C種 EP-G塗 塗替え ○A種 ○B種 ○C種 亜鉛めっき鋼面 A種 ※ 鉛酸カドミウム及び亜鉛 2種 ※A種 ○B種 ○C種 鋼製建具 B種 ○ 変成木粉樹脂プライマー ※A種 ○B種 ○C種 塗替え ○A種 ○B種 ※C種 EP-G塗 C種 ○ 水系及び亜鉛		2 溶接金網(8.2.2)	網目の形状、寸法 鉄線の径(mm)	4 構造体用モルタル (8.2.6)	モルタル圧縮強度 フロー値		5 型枠(せき板) (8.1.4) (8.2.7) (8.7.8)	合板の規格 ※「合板の日本農林規格」の「コンクリート用合板の規格」による合板 ○ 合板の材種 ※広葉樹合板、針葉樹合板又はこれらの複合合板 ○ 厚さ(mm) ※12 ○ 打放し仕上げのせき板 ※合板せき板を用いる場合 (表8.1.3) 種別 板面の品質 施 工 箇 所 ○A種 ※8.2.7(b)(1) ○ ○B種 ※8.2.7(b)(2) ○ ○C種 ※8.2.7(b)(2) ○ ○合板せき板を用いない場合 せき板の種類 スリーブの材種 (表8.2.6) 適用箇所 材 種 (規 格 そ の 他) 水密を要する地中部分等 ※つば付き鋼管 (JIS G3452の黒管に厚さ6mm以上、 つば幅50mm以上の鋼管を溶接したもの) 水密を要しない地中部分等 ※硬質ポリ塩化ビニル管 (JIS K6741のVU) 上記以外の円形スリーブ ※溶融亜鉛めっき鋼板 (径200mm以下は厚0.4mm 以上、径200mmを超え350mm以下は厚0.6mm以上) ○ 外部に面する打放し仕上げの打増し厚さ ※図示による ○20mm シアコネクタとセパレーターの兼用 ○可 ○不可 ※フレッシュコンクリートの試験 ○省略する	2 あと施工アンカー の試験(8.2.4) (8.12.5)
8 建 築 改 修 工 事				4 柱の帯筋(8.3.4)	○H型 ※W-I型 ○W-II型 ○図示	5 鉄筋のかぶり厚さ 及び間隔(8.3.5)	○軽量コンクリートに土に接する部分の鉄筋のかぶり厚さは下表による。 ○塩害の受けるおそれのある部分等、耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さは下表による。 施 工 箇 所 等 最 小 か ぶ り 厚 さ (mm) 機械式継手及び溶接継手のあき ○	8 1 4 耐 震 補 強 工 事 (鉄 骨 工 事)	1 鉄骨の製作工場 (8.1.5)	○監督職員の承認する工場 ※建築基準法第77条の5第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として 認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター又は(株)全国鉄骨評価機構 (旧(社)全国鉄骨工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める 「(OS OH OM OR OJ)グレード」として、国土交通大臣から認定を 受けた工場もしくは同等以上の能力のある工場	
				6 壁の配筋及び補強 (8.3.7)	※構造特記による	7 圧接完了後の 試験(8.3.8)	試験方法 ※超音波探傷試験 ○引張試験		2 施工管理技術者 (8.1.5)	※適用する ○適用しない	3 鋼材の種類 (8.2.8)
				6 壁の配筋及び補強 (8.3.7)	※構造特記による	7 圧接完了後の 試験(8.3.8)	試験方法 ※超音波探傷試験 ○引張試験	8 1 4 耐 震 補 強 工 事 (鉄 骨 工 事)	3 鋼材の種類 (8.2.8)	種類の記号 使用箇所 規格等 SS400 JIS G 3101 SM400A JIS G 3106 SN400A JIS G 3136 ※図示による	
				6 壁の配筋及び補強 (8.3.7)	※構造特記による	7 圧接完了後の 試験(8.3.8)	試験方法 ※超音波探傷試験 ○引張試験		4 高力ボルト (8.2.9) (8.14.2) (8.14.7)	ボルトの種類 ○トルシヤ形高力ボルト(建築基準法の認定品) ○JIS形高力ボルト(JIS B 1186) ボルト径 ○ すべり係数試験 ※行わない ○行う 試験方法等 ○図示による	5 溶融亜鉛めっき 高力ボルト (8.2.9) (8.20.4)

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項
8-4 耐震補強工事(鉄骨工事)	<p>6 溶接材料 (8.2.10) 溶接材料 ※ 改修標準仕様書8.2.10(a)(b)による ○ 図示による</p> <p>7 工作図 (8.13.2) 高力ボルト、普通ボルト及びアジャスターの縁部距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※ 図示による (図に無い場合は鉄骨設計標準による)</p> <p>8 仮組 (8.13.10) ○ 実施する 部位 () ○ 実施しない</p> <p>9 溶接作業における技能資格者 (8.15.3) 溶接作業者の技量付加試験 ※ 行わない ○ 行う 試験の要領 ○ 図示による ○</p> <p>10 溶接接合 (8.15.4) 開先の形状 ○ 図示による ○ 構造関係共通図(鉄骨設計標準図)による ○ ○ 改良型スカラップ (8.15.7) エンドタブの切断 ○ 有 ○ 無 (8.15.10) 適用箇所 ※ 図示による ○</p> <p>11 溶接部の試験 (8.15.11) ○ 浸透探傷試験(JIS Z 2343-1) ○ 磁粉探傷試験(JIS Z 2320-1) ※ 超音波探傷試験 工場溶接 平均出検品質限界(AOQL) ※ 全数 ○ 検査水準 ※ 第6水準 ○ 第 水準 現場溶接 平均出検品質限界(AOQL) ※ 全数 ○</p> <p>12 錆止め塗料 (7.3.2) 塗料の種類 ○ 鉄鋼面の錆止め塗料 ○ 表7.3.11による ※ A種 ○ B種 ○ 亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料 ○ 表7.3.2による ※ A種 ○ B種 ○ C種 ○</p> <p>13 耐火被覆 (8.18.2) 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面(鉄骨に溶接されたものに限る) ○ 表7.3.11による ※ A種 ○ B種 ○ 耐火被覆材の接着する面への塗装 ○ 行わない ○ 行う</p> <p>14 アンカーボルト (7.2.4) 適用 ○ 構造用アンカーボルト (7.10.3) 材質 ○ SNR400B ○ アンカーフレームの形状及び寸法 ○ 図示による ○</p> <p>15 柱底均しモルタル (7.2.9) 7.10.3) モルタルの種類 ※ 無収縮モルタル ○ 厚さ ※ 図示による ○ 工法 ※ A種 ○ B種</p>	<p>8-5 耐震補強工事(グラウト)</p> <p>1 グラウト材 (8.2.11) グラウト材 ※ 早強型特殊セメント系無収縮モルタル ○ 無収縮モルタルの調合 ※ 製造所で調合されたプレミックスタイプ ○ 現場調合形</p> <p>2 柱底等の均しモルタル(8.2.11) 無収縮グラウト材の品質 圧縮強度 (N/mm²) ※ 30以上 ○ コンクリートJ140-1値(秒) ※ 一般部コンクリートと同等以上の強度(鉄筋コンクリート壁増設工事の壁頭部) ※ 6 ~ 10 ○ 乾燥収縮 (10⁻⁴) ※ 0 ○</p> <p>※ グラウト材の品質管理は次による 圧縮強度試験 ※ 行う ○ 行わない コンシステンシー試験 ※ 行う ○ 行わない</p> <p>無収縮モルタル材 ○ 使用する ○ 使用しない</p>	<p>8-7 耐震補強工事(鉄骨ブレース設置工事)</p> <p>1 補強工法 ○ 内側補強工法 ○ 外側補強工法 ○ 枠付き鉄骨K型ブレース ○ 枠付き鉄骨X型ブレース ○ 枠付き鉄骨類柱付ブレース ○ 枠付き鉄骨マンサード型ブレース ○ 枠付き有開口鉄板パネル ○ 枠付き無開口鉄板パネル 製造所及び専門業者 ()</p> <p>2 既存部分の撤去 (8.22.2) 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。</p> <p>3 既存部分の処理 (8.22.3) 目荒しの程度 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。</p> <p>4 既存構造体との取合い (8.22.7) 割製補強筋 ※ 以下のスバイラル筋とし、鉄骨ブレース設置後、アンカー筋とスタッドを交互に縫うように全周にわたり整然と配置する。 直径6mm以上の鉄筋とし、ピッチは40~60mmの範囲でスタッド(アンカー)ピッチの1/3~1/6程度とする(箇所により内径が異なるので注意する) ○ 図示による</p> <p>5 仕上げ (8.22.9) ※ 図示による ○</p>	<p>8-8 耐震補強工事(柱補強工事)</p> <p>1 補強工法 ○ 新設耐震壁 ○ 増打ち耐震壁 ○ 開口部閉鎖壁 ○ 新設袖壁 製造所及び専門業者 ()</p> <p>2 既存部分の撤去 (8.21.2) 既存仕上げの撤去範囲 ※ 図示による ○ 本工事に支障となる最小限の範囲を撤去し既存構造体を露出させる。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ※ 図示による ○ 既存構造体の撤去範囲 ※ 図示による ○</p> <p>3 既存部分の処理 (8.21.3) 目荒しの程度 既存柱・梁 ※ 平均深さ2~5mm(max:5mm)程度の凹面を全体の15~30%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示による 壁(増打ち壁増設の場合) ※ 平均深さ2~5mm(max:5mm)程度の凹面を全体の10~15%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示による</p> <p>4 鉄筋の加工及び組立て (8.21.6) 割製補強筋 ※ 「スバイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」が1/4筋は直径6mm以上とし、ピッチは40~60mmとする。 ○ 図示による 開口付増設壁の開口部鉄筋及び増設壁で壁の端部横筋 ※ ダブル配筋=閉鎖型配筋、シングル配筋=フック(3d)付き ○ 図示による</p> <p>5 コンクリートの打込み工法(8.21.8) ※ 流込み工法 ○ 圧入工法</p> <p>6 既存構造体との取合い (8.21.9) ※ 8.19.9の方法による他、以下に注意する ※ 開口周囲の既存壁をはつり、既存壁筋を露出させ、これに増設する壁筋をフレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。 ※ 開口周囲の既存壁にあと施工アンカーを打設し、これに増設する壁筋をフレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。(壁が厚く配筋の場合) ※ 開口打設部全てについてグラウト剤を注入する。(壁が薄い場合) ○ 図示による</p> <p>7 仕上げ (8.21.10) ※ 図示による ○</p>	<p>8-9 耐震補強工事(耐震スリット)</p> <p>1 耐震スリット新設工事 (8.25.2) 方 向 タ イ プ 耐火性能 防水性能 ○ 垂直方向 ※ 完全(全貫通型)スリット ○ 耐火型 ○ 有り ○ 水平方向 ○ セン断型部分スリット ○ 非耐火型 ○ 無し ○</p> <p>品質・規格 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存鉄筋の処理 ○ はつり出し ○ 切断 ○ 存置(部分スリット) スリットの幅及び深さ ○ 図示による ○ スリットの充填材 耐火材の使用 ○ 使用する ○ 使用しない 適用箇所及び仕様 ○ 図示による 造音材の使用 ○ 使用する ○ 使用しない 適用箇所及び仕様 ○ 図示による</p> <p>既存部分の撤去の補修 ※ 図示による ○</p>	<p>8-10 耐震補強工事(免震改修)</p> <p>1 既存部分の撤去 (8.26.5) 既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造・既存杭の場合の仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。</p> <p>2 既存部分の処理 (8.26.6) 既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造・既存杭の場合の目荒しの程度 既存柱・梁 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。 壁(増打ち壁増設の場合) ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。</p> <p>3 支承材・減衰材 (8.26.7) 8.26.10) ○ 支承材 材質 諸元 ○ 減衰材 材質 諸元</p> <p>性能確認試験 項目 数量 製品検査 項目 内容 判定基準 検査頻度</p> <p>防錆処置 設置位置の寸法許容差 別置の支承材又は減衰材 ○ 使用しない ○ 使用する 種類 形状 寸法 数量 設置条件</p> <p>既存部分が鉄筋コンクリート造または鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 割製補強筋 ※ 「スバイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」が1/4筋は直径6mm以上とし、ピッチは40~60mmとする。 ○ 図示による</p>	

Chapter 8: 耐震補強工事 (免震改修)
Item 4: 仕上げ (8.26.13)
Item 5: 耐火被覆 (8.26.14)
Item 6: エキスパンションポイント (8.26.15)
Item 7: 検査 (8.26.16)
Item 8: 維持管理要領 (8.26.17)

Chapter 8: 11 耐震強工事 (制振改修)
Item 1: 既存部分の撤去 (8.27.2)
Item 2: 既存部分の処理 (8.27.3)
Item 3: 減衰材 (8.27.4) (8.27.6)

Chapter 8: 11 ユニッツ及びその他の工事
Item 1: 家具、ユニット等の揮発性有機化合物対策
Item 2: フリーアクセスフロア (20.2.2)
Item 3: 可動間仕切 (20.2.3)

Chapter 8: 11 耐震補強工事 (基礎工事)
Item 1: 既存部分の処理等 (8.28.2)
Item 2: 埋戻し及び盛土 (8.28.3)
Item 3: 埋戻し及び盛土 (8.28.3)
Item 4: 杭地業 (8.28.2)

Chapter 8: 11 耐震強工事 (制振改修)
Item 5: 砂利地業 (8.2.14)
Item 6: 捨コンクリート地業 (8.28.4)

Chapter 8: 11 ユニッツ及びその他の工事
Item 3: 可動間仕切 (20.2.3)

Chapter 9: ユニッツ及びその他の工事
Item 4: 移動間仕切 (20.2.4)
Item 5: トイレブース (20.2.5)
Item 6: 階段滑り止め (20.2.6)
Item 7: 階段手すり
Item 8: 黒板及びホワイトボード (20.2.8)
Item 9: 鏡 (20.2.9)
Item 10: 表示・標識 (20.2.10) (20.2.11)

Chapter 9: ユニッツ及びその他の工事
Item 9: 鏡 (20.2.9)
Item 10: 表示・標識 (20.2.10) (20.2.11)

Chapter 9: ユニッツ及びその他の工事
Item 11: ブラインド (20.2.12)
Item 12: ロールスクリーン (20.2.13)
Item 13: カーテン (20.2.14)
Item 14: カーテンレール (20.2.14)

Chapter 9: ユニッツ及びその他の工事
Item 15: ブラインドボックスカーテンボックス
Item 16: くつふきマット
Item 17: 鋼製書架及び棚
Item 18: 収納家具(木製)

Chapter 9: ユニッツ及びその他の工事
Item 19: 掲示板
Item 20: カウンター
Item 21: 洗面カウンター
Item 22: 流し台ユニット
Item 23: 非常用救助袋等
Item 24: 鍵箱
Item 25: 車止め
Item 26: フェンス

Chapter 9: ユニッツ及びその他の工事
Item 10: 1 材料 (21.2.1)
Item 2: 側塊、排水樹及ふた (21.2.1)
Item 3: 緑石 (21.3.1)
Item 4: コンクリート側溝 (21.3.1)

11 舗装工事
1 路床 (22.2.2) (22.2.3) (22.2.5)
路床の構成
○凍上抑制層 厚さ ○ 図示による ○
○透水性舗装 フィルター層の厚さ 車道部 ○ 図示による ○ 150mm ○
歩道部 ○ 図示による ○ 50mm ○
盛土に用いる材料 ○ A種 ※ B種 ○ C種 ○ D種 (表3.2.1)
路床安定処理 ○ 行う ○ 行わない
路床安定処理用材料 ※ 添加材料による安定処理 (表22.2.2)
種類 ○ 地盤改良材 () ○ 高炉セメントB種
○ 普通ポルトランドセメント ○ 生石灰 特号 ○ 生石灰 1号
○ フライアッシュセメントB種 ○ 消石灰 特号 ○ 消石灰 1号
添加量 kg/m3
路床土の支持力比(CBR)試験 ○ 行う (※ 乱した土 ○ 乱さない土)
路床締固め度の試験 ※ 行う (埋戻し部、盛土部) ○ 行わない
砂の粒度試験 ○ 行う ○ 行わない

2 路盤 (22.3.2) (22.3.3) (22.3.5)
路盤の厚さ mm
材料 ※ 再生クラッシュラン (RC-40, 30, 20)
○ クラッシュラン (C-40, 30, 20) ○ クラッシュ鉄鋼スラグ (CS-40)
路盤締固め度の試験 ※ 行う ○ 行わない

3 アスファルト舗装 (22.4.2) (22.4.3) (22.4.4) (22.4.5)
舗装の種類 表層(mm) 基層(mm) カラー舗装の種類
※ アスファルト舗装 ※ 顔料混入加熱アスファルト混合物
アスファルト ※ 再生アスファルト ○ ストレートアスファルト
再生加熱アスファルト混合物の種類
区分 ※ 一般地域 ○ 寒冷地域
表層 ※ 密粒度アスファルト混合物 (13) ※ 密粒度アスファルト混合物 (13F)
○ 細粒度アスファルト混合物 (13)

4 コンクリート舗装 (22.5.2) (22.5.3) (22.5.4) (22.5.5)
構成
舗装の種類 部位 厚さ(mm) 設計基準強度(N/㎡) スランプ(cm)
早強セメント ※ 使用しない ○ 使用する
目地
注入目地材料 ※ 低弾性タイプ ○ 高弾性タイプ
種類 ○ 突合せ目地 ○ 収縮目地 ○ 伸縮調整目地 ○
間隔 ○ 5m程度ごと ○ 4m程度ごと ○ 3m程度ごと ○
コンクリート版厚さの試験 ○ 行う ※ 行わない

5 カラー舗装 (22.6.3) (22.6.4) (22.6.5)
種類 部位 配合その他
※ 加齢系7777混合物 ○ 車路 ○ 歩行者用通路
添加剤 ○ 着色骨材 ○ 自然石
結合材 ○ 7777 ○ 石油樹脂(添加量)
7777混合物等の抽出試験
○ 適用する ※ 適用しない
舗装の厚さ mm
○ 常温系ニート工法
○ 常温系塗布工法
着色部の下部 ○ アスファルト舗装 ○ コンクリート舗装

6 透水性舗装 (22.7.2) (22.7.3) (22.7.4) (22.7.5)
舗装構成及び厚さ ※ 図示による ○
表層の厚さの試験 ※ 行う ○ 行わない
開粒土7777混合物の抽出試験 ○ 行う ※ 行わない

7 ブロック系舗装 (22.8.2) (22.8.3)
○ コンクリート平板舗装
種類 種類 寸法(mm) 厚さ(mm) 目地
※ 普通平板(N) ○ カラー平板(C) ※ 300角 ※ 60 ※ 砂
○ 洗出平板(W) ○ 擬石(S) ○ ○ ○ モルタル
品質・規格
○ インターロッキングブロック舗装
種類 種類 厚さ(mm) 色彩及び表面加工等
※ 標準ブロック ○ 京エコー ※ 80 ※ 標準品
○ 透水性ブロック ※ 60 ※ 80 ○
○ 植生ブロック ○ 60 ※ 80 ○ 100 ○
品質・規格
○ 舗石舗装
種類 種類 厚さ(mm) 工法 規格品
※ 小舗石(花崗岩) ※ 80~100 ※ うるご張り ※ 2等品
○ ○ ○ ○
品質・規格

8 砂利敷き (22.10.2)
通路 ※ A種 ○ B種
建物周囲その他 ○ A種 ※ B種
※ 下敷きの使用材料は再生クラッシュランとする

9 白線引き
種類 ○ 溶融式 ○ ペイント式 幅(cm) ○ 15 ○

12 環境配慮改修工事
1 一般事項 (9.1.1)
○ アスベスト含有吹付け材除去工事
○ 除去工法 ()
○ 封じ込め工法 ()
○ 囲い込み工法 ()
○ アスベスト含有保温材除去工事
○ アスベスト含有成形板除去工事
2 仕上げ工事 (9.1.1)
アスベスト含有建材除去後の仕上げ工事
※ 図示による ○
3 施工調査等 (9.1.1)
施工調査
○ 行う
アスベストの除去に当たり、あらかじめ事前の施工調査を下記により行い、結果を図面により監督職員に提出する。
調査範囲 ※ 図示による ○
調査事項
※ アスベスト使用部位の確認
※ アスベスト層の厚さの確認
※ 施工範囲と工事管理区分の確認
※ 更衣施設等の仮設計画
※ 廃棄物等の搬出方法
○ 行わない

アスベスト含有分析
○ 行う (分析結果を監督職員に提出する)
※ JIS A 1481に基づくこと
材料名 定性分析 定量分析
○ (箇所数) ○ (箇所数)
○ (箇所数) ○ (箇所数)
○ (箇所数) ○ (箇所数)
○ (箇所数) ○ (箇所数)
サンプル数 1箇所あたり3サンプル
○ 行わない

12 環境配慮改修工事
4 アスベスト粉じん濃度測定 (9.1.1)
○ 行う
測定時期 測定場所 測定点(各施工箇所ごと) 備考
除去作業前 除去作業室内 ○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点
調査対象室外部付近 ○ 1点 ○ 2点 ○ 点
除去作業中 除去作業室内 ○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点
負圧粉じん装置の吹出し風速1m/秒以下の位置
排出吹き出し口 各 ○ 1点 ○ 2点 ○ 3点
除去作業室外 ○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点
除去作業後 除去作業室内 ○ 1点 ○ 2点 ○ 点 養生中
除去作業後 除去作業室内 ○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点 セット撤去後
調査対象室外部付近 ○ 1点 ○ 2点 ○ 点 1週間以降
※ 周囲の状況等により上記によりがたい場合は、監督職員と協議する。
○ 行わない
測定機関 ※ (公社)日本作業環境測定協会による「石綿含有の有無の判定及び石綿の含有率の測定が可能な石綿含有率分析可能機関」とする。
○
報告書提出部数 ※ 3部 ○ 部
施工業者
※ 工事に相応した技術を有することを証明する資料をあらかじめ提出すること。
○ 「吹付アスベスト粉じん飛散防止処理技術」について(一財)日本建築センターの建設技術審査証明事業による建築物等の施工技術及び保全技術の審査証明を取得した工法の施工業者等。
除去を行う範囲
※ 図示による (仕上げ表による 床・壁・天井毎に種別を確認)
○ 全ての室 ○
除去工法
※ 改修標準9.1.3(b)(1)による
○
除去したアスベスト含有吹付け材等の飛散防止
※ 密封処理(二重袋梱包)
隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空掃除機、除じん機フィルタ等についても密封処理とする。
※ 湿潤化
○ セメント固化
○ 溶融固化
除去物等の保管
※ 他の建設副産物等と分別して保管する。
※ 飛散防止措置を講ずる。
※ アスベスト等の保管場所であることを表示を行う。
除去したアスベスト含有吹付け材等の処分
○ 埋立処分(管理型最終処分場)
○ 中間処理(溶融施設)

5 アスベスト含有吹付け材の除去 (9.1.3)
除去を行う範囲
※ 図示による
○
除去の方法
※ 原形のまま手ばらし
○ 手ばらし以外(この場合は改修標準9.1.3(a)による隔離とする)
○
除去したアスベスト含有保温材の処分
○ 埋立処分(管理型最終処分場)
○ 中間処理(溶融施設)

6 アスベスト含有保温材の除去 (9.1.4)
除去を行う範囲
※ 図示による
○
除去の方法
※ 原形のまま手ばらし
○ 手ばらし以外(この場合は改修標準9.1.3(a)による隔離とする)
○
除去したアスベスト含有保温材の処分
○ 埋立処分(管理型最終処分場)
○ 中間処理(溶融施設)

7 アスベスト含有成形板の除去 (9.1.5)
除去を行う範囲
※ 図示による
○
除去の方法
※ 湿潤化したのちに手ばらし
○ 湿潤剤等の噴霧、散水等により十分に湿潤化した状態で破砕
○
除去したアスベスト含有成形板の処分
○ アスベスト含有せっこうボード
※ 埋立処分(管理型最終処分場)
○ アスベスト含有せっこうボードを除くアスベスト含有成形板
○ 埋立処分(安定型最終処分場)
○ 中間処理(溶融施設)

除去を行うアスベスト成形板の仕様
種類 種類 厚さ(mm) 種類 種類 厚さ(mm)
○ 化粧石膏ボード ○ 9.5 ○ 石綿ロックウール ○
○ ビニル床タイル ○ 2.0 ○ 石綿スレート(外装・内装) ○
○ 石綿保温材 ○ ○ 押出成形セメント板 ○
○ けいそう土保温材 ○ ○ 化粧石綿セメント板 ○
○ 塩基性炭酸マグネシウム保温材 ○ ○ 石綿セメントけい酸カルシウム板 ○
○ けい酸カルシウム保温材 ○ ○ 化粧石綿セメントけい酸カルシウム板 ○
○ 親水性バーライト保温材 ○ ○ 吸音穴あき石綿セメント板 ○
○ 繊維混入けい酸カルシウム板 ○ ○

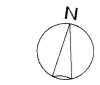
12 環境配慮改修工事
8 断熱アスファルト防水改修工事 (9.2.3)
工法の種類 ○ P1B1 ○ T1B1
○ P2A1 ○ M3D1
○ P0D1 ○ M4D1
9 外断熱改修工事 (9.3.2) (9.3.4)
断熱材 種類 ○
厚さ(mm) ○
外装材 ○ 適用する (種類 防火性能)
○ 適用しない
既存外壁 ○ 仕上げ材の撤去 ()
○ 下地面の清掃 ()
○ 下地の欠損部の改修 (4.1.4 [外壁改修工法の種類]による)
施工 ※ 断熱材製造所の仕様による ○
通気層 ○ 有(厚さ mm) ○ 無
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
○

10 ガラス改修工事 (9.4.2)
材料 ○ 板ガラスの種類
○ 板ガラスの厚さ
○ 複層ガラスの厚さ
○ 複層ガラスの断熱性・日射遮蔽性 ※ U3-1 ○ U3-2

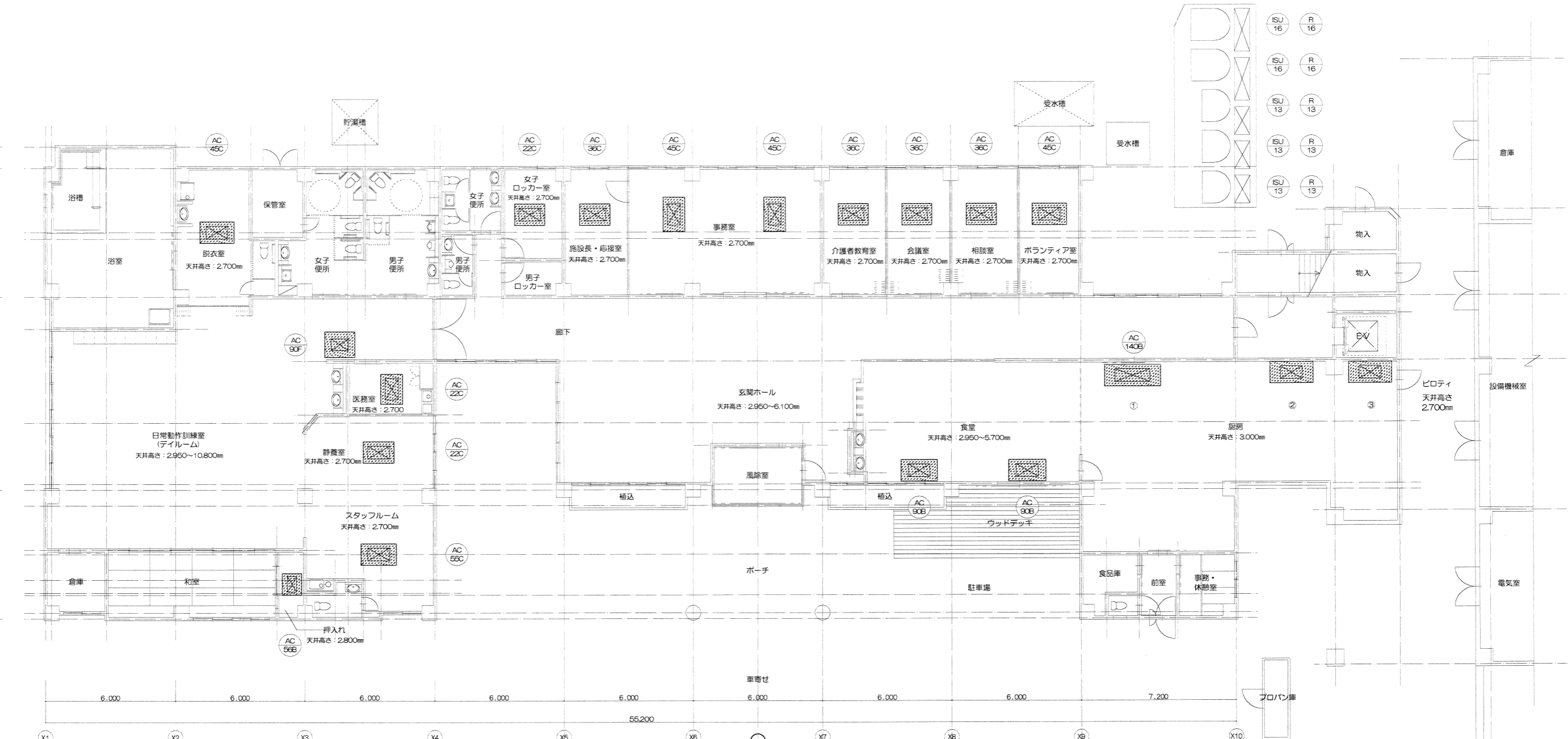
11 断熱・防露改修工事 (9.5.2) (9.5.3)
材 料 そ の 他
断熱材 ○ ビーズ・スチレンフォーム保温材又は断熱材 断熱材厚さ
○ 押出型スチレンフォーム保温材又は断熱材 ○ mm
打込み工法 ○ 硬質ウレタンフォーム保温材A種又は断熱材 JIS A 9511 接着剤の
○ フォームフォーム保温材又は断熱材 JIS A 9521 総放熱量
(※ F☆☆☆☆ ○) ※ F☆☆☆☆
断熱材現場 ※ A種 1 ○ B種 1 JIS A 9526 吹付け厚さ
発泡工法 (難燃性を有するものとする) ○ mm
※ 開口部等補修用接着剤の総放熱量はF☆☆☆☆とする
※ 特定フロンを使用しないものとする。
(9.5.4)
○ 断熱材後張り工法
断熱材の種類 ○
断熱材の厚さ(mm) ○

12 屋上緑化 (9.6.2) (9.6.4)
樹木の種類、寸法、数量等 ※ 図示による ○ 下表による
種類 寸法 数量 備考
芝・地被類の種類
※ 図示による
○ コウライシバ (※ 目地張り ○)
○ ノシバ (※ 目地張り ○)
○ セダム類 (○ カット ○ ふるい ○ プラグ苗 ○)
材料 ○ 見切り材 ○ 舗装材
○ 水抜き管 ○ マチング材
かん水装置 ○ 設置する ()
○ 設置しない
支柱材 ※ 杉(焼き丸太) ○ 竹 ○ ひのき ○ から松(皮はぎ)
形式 ※ 図示による ○
防露処理方法 ※ 加圧式防露処理丸太 ○
幹巻用材料 ※ 幹巻用テープ ○ わら及びこも

既存保護層の撤去 ○ 行う (工法は3.2.3 [既存保護層等の撤去]による)
○ 行わない
新植芝及び地被類の枯補償 ※ 引渡しの日から1年 ○ 引渡しの日から 年



Y4 1,000
Y3 6,000
Y2 21,000 9,000
Y1 6,000
X1 X2 X3 X4 X5 X6 X7 X8 X9 X10
55,200



凡例
 空調機の交換に伴う、天井撤去復旧範囲を示す

室名	内容	室名	内容	室名	内容	室名	内容	室名	内容	室名	内容	室名	内容	室名	内容
脱衣室	現状 下地：LG 仕上：ケイ酸カルシウム板張り（底目）EP塗装 厚6	女子ロッカー室	現状 下地：LG 仕上：化粧石膏ボード張り厚9.5	施設長応接室	現状 下地：LG+石膏ボード厚12.5 仕上：ロックワール吸音板張り厚12	事務室	現状 下地：LG+石膏ボード厚12.5 仕上：ロックワール吸音板張り厚12	介護者教育室	現状 下地：LG+石膏ボード厚12.5 仕上：ロックワール吸音板張り厚12	会議室	現状 下地：LG+石膏ボード厚12.5 仕上：ロックワール吸音板張り厚12	相談室	現状 下地：LG+石膏ボード厚12.5 仕上：ロックワール吸音板張り厚12	ボランティア室	現状 下地：LG+石膏ボード厚12.5 仕上：ロックワール吸音板張り厚12
脱衣室	撤去：ケイ酸カルシウム板張り（底目） 復旧：下地調整の上、ケイ酸カルシウム板張り（底目）EP塗装 厚6 （撤去復旧範囲：1,600×1,000） （開口補強：1,200×640）	女子ロッカー室	撤去：化粧石膏ボード張り 復旧：下地調整の上、化粧石膏ボード張り厚9.5 （撤去復旧範囲：1,400×1,000） （開口補強：990×640）	施設長応接室	撤去：石膏ボード厚12.5+ロックワール吸音板張り 復旧：下地調整の上、ロックワール吸音板張り厚12 （撤去復旧範囲：1,400×1,000） （開口補強：990×640）	事務室	撤去：石膏ボード厚12.5+ロックワール吸音板張り 復旧：下地調整の上、ロックワール吸音板張り厚12 （撤去復旧範囲：1,600×1,000） （開口補強：1,200×640）	介護者教育室	撤去：石膏ボード厚12.5+ロックワール吸音板張り 復旧：下地調整の上、ロックワール吸音板張り厚12 （撤去復旧範囲：1,400×1,000） （開口補強：990×640）	会議室	撤去：石膏ボード厚12.5+ロックワール吸音板張り 復旧：下地調整の上、ロックワール吸音板張り厚12 （撤去復旧範囲：1,400×1,000） （開口補強：990×640）	相談室	撤去：石膏ボード厚12.5+ロックワール吸音板張り 復旧：下地調整の上、ロックワール吸音板張り厚12 （撤去復旧範囲：1,400×1,000） （開口補強：990×640）	ボランティア室	撤去：石膏ボード厚12.5+ロックワール吸音板張り 復旧：下地調整の上、ロックワール吸音板張り厚12 （撤去復旧範囲：1,600×1,000） （開口補強：1,200×640）
日常動作訓練室（テイルーム）	現状 下地：LG+石膏ボード厚12.5 仕上：ロックワール吸音板張り厚19	押入れ	現状 下地：LG 仕上：化粧石膏ボード張り厚12.5	医務室	現状 下地：LG+石膏ボード厚12.5 仕上：ロックワール吸音板張り厚12	静養室	現状 下地：LG+石膏ボード厚12.5 仕上：ロックワール吸音板張り厚12	スタッフルーム	現状 下地：LG+石膏ボード厚12.5 仕上：ロックワール吸音板張り厚12	食堂	現状 下地：LG+石膏ボード厚12.5 仕上：ロックワール吸音板張り厚19 EP塗装	厨房	現状 下地：LG 仕上：ケイ酸カルシウム板張り（底目）EP塗装 厚6		
日常動作訓練室（テイルーム）	撤去：石膏ボード厚12.5+ロックワール吸音板張り 復旧：下地調整の上、ロックワール吸音板張り厚19 （撤去復旧範囲：1,400×1,200） （開口補強：不要）	押入れ	撤去：化粧石膏ボード張り 復旧：下地調整の上、化粧石膏ボード張り厚12.5 （撤去復旧範囲：1,000×900） （開口補強：760×460）	医務室	撤去：石膏ボード厚12.5+ロックワール吸音板張り 復旧：下地調整の上、ロックワール吸音板張り厚12 （撤去復旧範囲：1,400×1,000） （開口補強：990×640）	静養室	撤去：石膏ボード厚12.5+ロックワール吸音板張り 復旧：下地調整の上、ロックワール吸音板張り厚12 （撤去復旧範囲：1,400×1,000） （開口補強：990×640）	スタッフルーム	撤去：石膏ボード厚12.5+ロックワール吸音板張り 復旧：下地調整の上、ロックワール吸音板張り厚12 （撤去復旧範囲：1,600×1,000） （開口補強：1,200×640）	食堂	撤去：石膏ボード厚12.5+ロックワール吸音板張り 復旧：下地調整の上、ロックワール吸音板張り厚19 EP塗装 （撤去復旧範囲：1,700×1,000） （開口補強：1,460×460）	厨房	撤去：ケイ酸カルシウム板張り（底目） 復旧：下地調整の上、ケイ酸カルシウム板張り（底目）EP塗装 厚6 ①（撤去復旧範囲：2,600×1,000） （開口補強：1,460×460） ②③（撤去復旧範囲：2,000×1,000） （開口補強：不要）		

電気設備工事 特記仕様書 - 1

【工事概要】
1 工事名称 秋田県立中央図書館大学開学小学校改修工事
2 建物名称 秋田県立中央図書館

Table with columns: 建物名, 構造, 階数, 建築面積 (㎡), 建設法令別表第一, 備考

8 工率科目
●印をついたものを適用し、各一式とする。

Main table with columns: 工率科目, 適用条件, 単価, 単位, 数量, 金額

【特記事項】
1 一般事項
1) 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官庁官庁官庁官庁の「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）平成二十八年版」以下、「標準仕様書」という。
2) 工事項目に機械設備工事及び建築工事を含む場合、その仕様は当該図面及び標準仕様書による。

Table with columns: 項目, 仕様, 備考

Table with columns: 項目, 仕様, 備考

Table with columns: 項目, 仕様, 備考

電気設備工事 特記仕様書 - 2

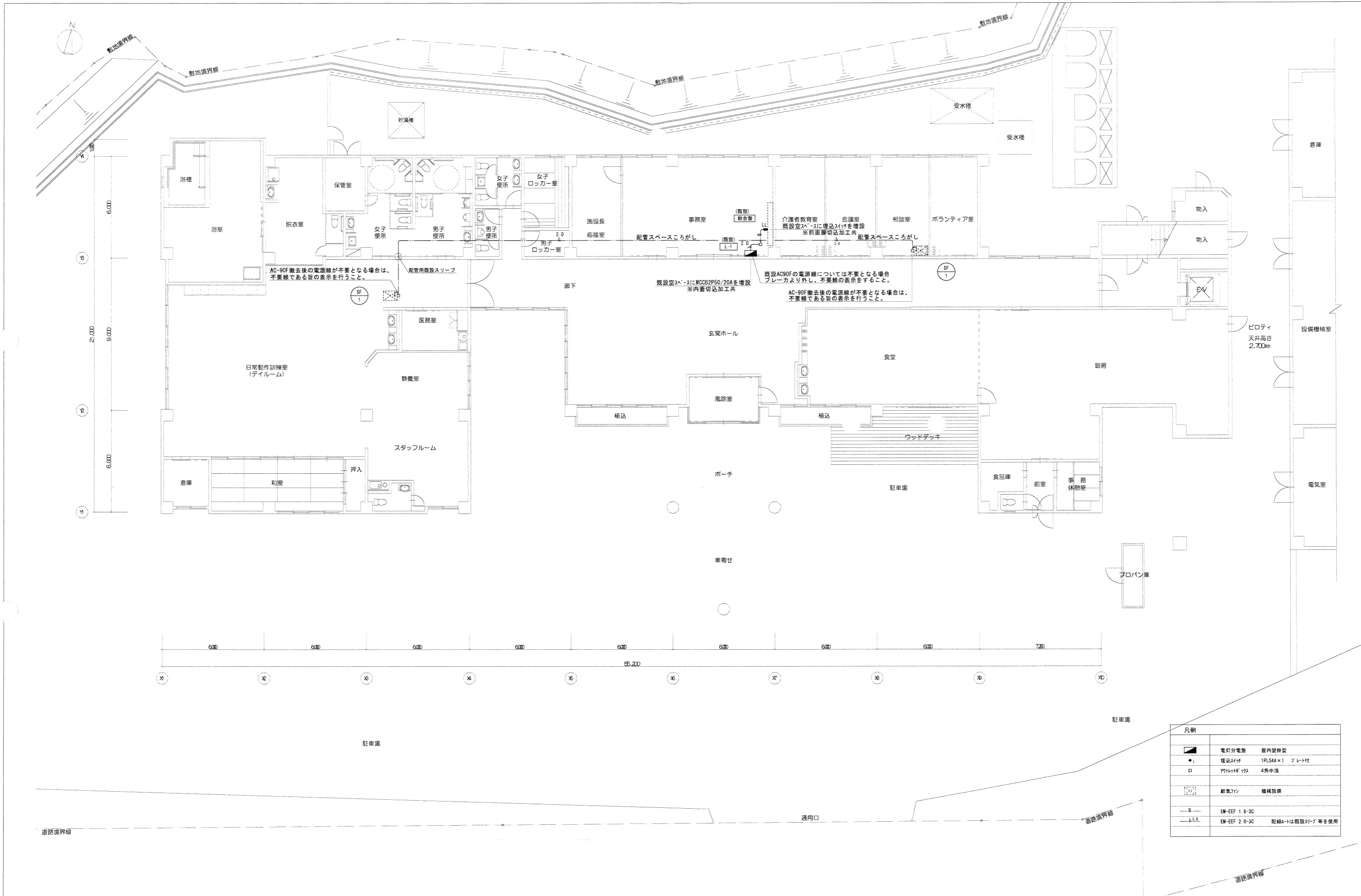
章	項目	特記事項
電力貯蔵設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○直流電源装置	用途 ○建築基準法用 ○消防法用 ○受変電設備専用 その他 ○過放電防止保護装置 (直流不足電圧継電器) の設定電圧は、90Vとする。
発電機	○交流無停電電源装置 (UPS)	用途 () 方式 ○一般形 ○簡易形
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
発電機	○形式	○オープン形 ○簡易形 ○キュービクル
	○連続運転可能時間	○10時間 (乙) ○72時間 (甲) ○
発電機	○発電機	電気方式 三相3線式 電圧 ○210V ○6.6kV ○415V 定格出力 kVA以上 力率 0.8
	○原動機	種別 ○ガスタービン ○ディーゼル機関 ○ガスエンジン ○マイクロガスタービン ○燃料電池 ○コージェネレーション 定格出力 kW (PS)以上 始動方式 ○電気式 ○空気式 冷却方式 ○ラジエーター式 ○水循環式 現地負荷試験 ○行う ○行わない
電機	○燃料	種類 ○重油 ○軽油 ○灯油 ○ガス () ○燃料小出槽 ○主燃料槽
	○監視方式	○警報盤による代表監視 ○中央監視盤による監視
設備	○太陽光発電装置	太陽電池 アレイ設置可能建築面積 公称最大出力 kW以上 m ² 以下 (長辺 m x 短辺 m) 系統連系 ○受動 ○能動 パワーコンディショナ出力 相 線式 V kW以上 逆流 ○有 ※無 交流出力電圧 ○100V ○200V 出力電気方式 ○三相3線式 ○単相3線式 ○単相2線式
	○外部移報	○有 ○無
通信機設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○施工方法	○金属管配線 ○ケーブル配線 ○合成樹脂管配線
構内交換設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○保安器用接地	○本工事 ○別途工事
情報表示設備	○形式	○電子交換機 ○ボタン電話装置
	○工事種類	○マルチサイン装置 ○出退表示設備 ○時刻表示設備
映像設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○施工方法	○金属管配線 ○ケーブル配線 ○合成樹脂管配線
拡声設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○増幅器	用途 ○全館放送用 (○一般放送 ○非常放送) ○ローカル放送用 ○自動放送はアッテネーターを経由した回路とする。
誘導支援設備	○スピーカー	特記なきものは ○SCHi-1V-M ○
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
テレビ共同受信設備	○工事内容	○音声誘導装置 検出方式 (○磁気式 ○無線式 ○画像認識) ○インターホン ○電話式 ○相互式 ○テレビインターホン ○親機に子機カメラ角度調整機能 (上下) を設ける。 ○外部受付用インターホン ○親機に子機カメラ角度調整機能 (上下) を設ける。 ○トイレ等呼出し装置 ○1窓 ○3窓 ○5窓 ○ 呼出しボタン ○壁付ボタン (プルスイッチの長さは0.2m以上とする) ○壁付握りボタン (握りボタンの長さは1.2m以上とする) ○受付呼出し装置 ○誘導音
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
テレビ共同受信設備	○アンテナ	○UHF用 ○BS用 ○CS用 ○AM用 ○FM用 ○CATV
	○アンテナマスト	○壁面取付形 ○自立形 ○配管用ステンレス鋼管 ○一般構造用炭素鋼管 (溶融亜鉛メッキ仕上げ) ○圧力配管用炭素鋼管 (溶融亜鉛メッキ仕上げ)
○電界強度測定	電界強度及び面質は、最上階が打上ったときに、アンテナ取付予定位置、またその周辺で測定し、その測定記録を監督職員に速やかに提出すること。 測定チャンネルは、監督職員と協議する。	

章	項目	特記事項
監視カメラ	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○画像	○カラー ○白黒
監視カメラ	○伝送方式	○アナログ伝送方式 ○ネットワーク伝送方式
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
監視カメラ	○車両検出方式	○ループコイル方式 ○光線方式
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
監視カメラ	○工事種類	○機械警備用配管 ○防犯装置 ○入室管理制御装置
	○自動火災報知装置	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付
自動火災報知装置	○受信機	○形 級 回線 ○壁掛形 ○自立形 ○単独形 ○複合形 ○副受信機 窓 ○面に消火ポンプ運転表示灯を設ける。
	○消火ポンプ始動	○消火栓箱内押ボタン ○発信機と連動 (総合盤に始動表示灯を設ける。)
自動火災報知装置	○機器取付箱	○消火栓一体形 ○単独形
	○自動閉鎖装置	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○運動制御器 回線 【予備電源 (蓄電池) 内蔵】 ○単独 ○自火報受信機と一体 ○ダンパ等 (全数) 復帰用の予備電源容量を持つこと。 ○防火戸用【DC24V 0.6A以下電磁式またはラッチ式】 ○防煙ダンパ用 【別途工事 瞬時通電式又は電動式 DC24V 0.6A以下 遠方復帰機構 (電動式) DC24V 0.7A以下】 ○防火シャッター用 【別途工事 DC24V 0.6A以下】
自動火災報知装置	○非常警報装置	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○電気方式 DC24V ○電源装置 ○非常電源 (蓄電池) ○自動火災報知設備と兼用
	○ガス漏れ火災警報装置	○工事範囲 ○配管 ○機器取付 ○受信機 ○単独形 ○自火報受信機と一体 ○ガスの種類 ○都市ガス (13A) ○液化石油ガス
自動火災報知装置	○諸警報表示	受信機に諸警報表示窓 (窓) を設ける。
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
自動火災報知装置	○監視方式	○警報盤 ○監視制御装置
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
自動火災報知装置	○非接地電源用分電盤	キャビネット ○鋼製 ○ステンレス製
	○ナースコール装置	トイレ及び浴室等の○防滴 ○防湿 呼出押ボタン
自動火災報知装置	○その他	○オプション等の試験は、監督職員の指示による。
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
自動火災報知装置	○電気方式	高圧 ○三相3線式 6kV ○三相3線式 200V ○ 低圧 ○単相3線式 100/200V ○単2線式 (○100V ○200V)
	○ふ設方式	○地中線 ○管路式 ○波付硬質合成樹脂管 (FEP) ○ポリエチレン被覆管 (PLP) ○埋設深さ 特記なきものはGL (舗装がある場合は、舗装下面) -300mm以下とする。
自動火災報知装置	○区分開閉器	○架空線 電柱 ○遠心カプレストレストコンクリートポール ○高圧負荷開閉器 7.2kV 300A 用途 ○架空引込用 ○地中引込用 構造 ○耐中塩じん用 ○耐重塩じん用 形式 ○引外し装置付き (SOG形) ○引外し装置なし ○避雷器内蔵 ○制御電源用変圧器内蔵
	○マンホール及びハンドホール	構造・寸法 ○標準図による ○図示による。 蓋の文字 ○蓋の用途表示は電力とする。 ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は、接地を省略してもよい。 高圧ケーブルは、受変電設備までの配線経路中、1ヶ所以上で3m余長をとる。
自動火災報知装置	○余長	○一般用 ○耐塩用 ○重耐塩用
	○端子、高圧ケーブル端末処理	○屋外形 ○耐塩形 ○一般用 ○耐塩形 基礎 ○本工事 ○別途工事 ○外灯ポールは材質が鋼製 (SPC) の場合は溶融亜鉛メッキとし、指定色塗装とする。 外灯回路以外に設ける。また、2倍長とする。
自動火災報知装置	○標識シート	○配管 ○配線 ○機器取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
自動火災報知装置	○ふ設方式	○地中線 ○管路式 ○波付硬質合成樹脂管 (FEP) ○ポリエチレン被覆管 (PLP) ○埋設深さ 特記なきものはGL (舗装がある場合は、舗装 (表層) 下面) -300mm以下とする。 ※遠心カプレストレストコンクリートポール
	○マンホール及びハンドホール	構造・寸法 ○標準図による ○図示による。 蓋の文字 ○蓋の用途表示は電力とする。 ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は、接地を省略してもよい。
自動火災報知装置	○標識シート	○配管 ○配線 ○機器取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
自動火災報知装置	○ふ設方式	○地中線 ○管路式 ○波付硬質合成樹脂管 (FEP) ○ポリエチレン被覆管 (PLP) ○埋設深さ 特記なきものはGL (舗装がある場合は、舗装 (表層) 下面) -300mm以下とする。 ※遠心カプレストレストコンクリートポール
	○マンホール及びハンドホール	構造・寸法 ○標準図による ○図示による。 蓋の文字 ○蓋の用途表示は電力とする。 ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は、接地を省略してもよい。
自動火災報知装置	○標識シート	○配管 ○配線 ○機器取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
自動火災報知装置	○ふ設方式	○地中線 ○管路式 ○波付硬質合成樹脂管 (FEP) ○ポリエチレン被覆管 (PLP) ○埋設深さ 特記なきものはGL (舗装がある場合は、舗装 (表層) 下面) -300mm以下とする。 ※遠心カプレストレストコンクリートポール
	○マンホール及びハンドホール	構造・寸法 ○標準図による ○図示による。 蓋の文字 ○蓋の用途表示は電力とする。 ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は、接地を省略してもよい。

章	項目	特記事項
調査報告	○調査範囲	○測定のみ ○対策工事実施設計書作成まで
	○測定時期	○工事前 ○工事中 ○完成後
	○測定箇所	箇所
	○測定内容	受信可能な全チャンネルとし、結果報告書を提出する。

別表 1 付属品・予備品

○イージーキャビネット	箱	○キーボックス	○テスター	○マンホールフック
○工具箱 (ドライバー、モンキーレンチ、組スパン、ハンマー)				
受変電設備・盤		ランプ及びヒューズの予備品は、20%とする。		



凡例	
■	電灯分電盤 屋内壁掛型
●	埋込スイッチ 1PLS4A×1 フレート付
□	700mm×700mm 4角中法
■	給気ファン 機械設備
—	EM-EEF 1.6-3C
—	EM-EEF 2.0-3C 配線は既設ケーブルを使用